

第2章

第2章

清水町の現状と評価

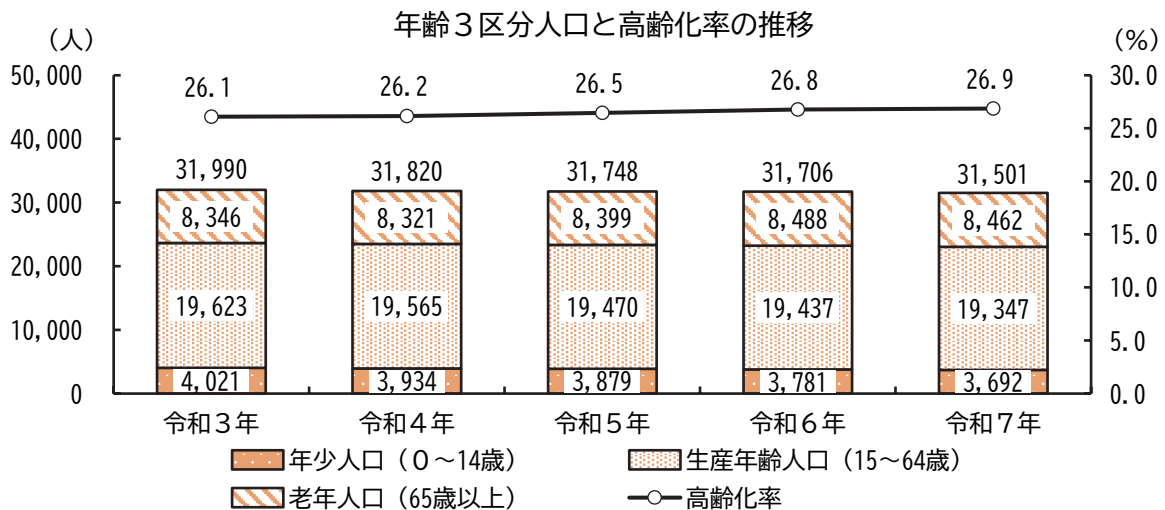
現状の表示方法として、百分率(%)で示したグラフについては、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。

1 町の現状

(1) 年齢3区分人口と高齢化率の推移

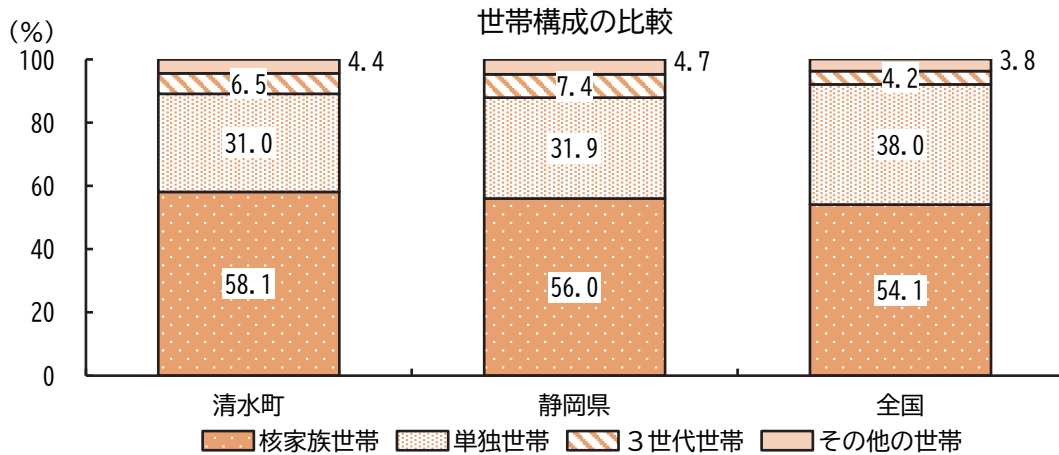
総人口は、令和3年以降減少しており、令和7年では31,501人となっています。

また、年少人口(0~14歳)と生産年齢人口(15~64歳)は減少している一方で、老年人口(65歳以上)は増加傾向であり、令和7年時点で高齢化率は26.9%となっています。



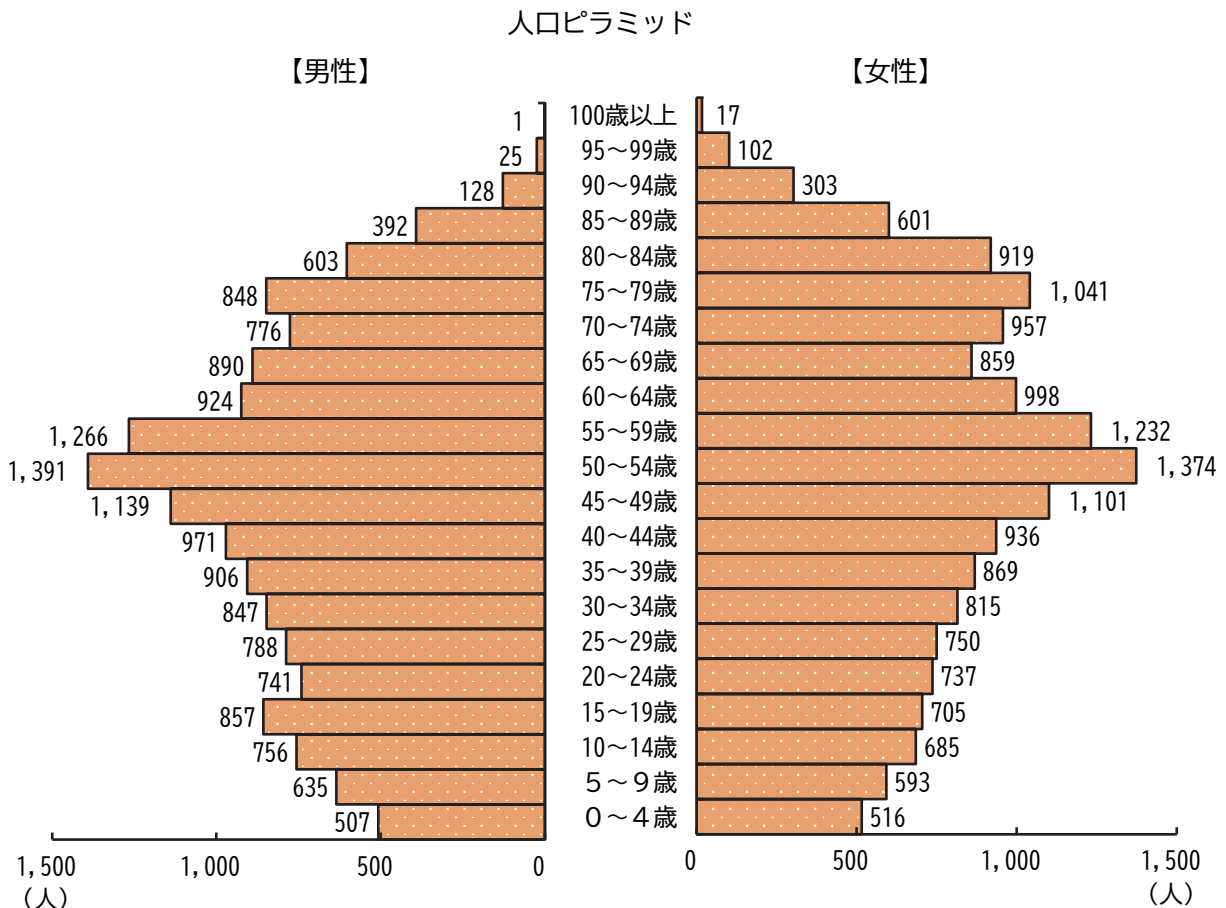
(2) 世帯構成の比較

世帯構成の比較をみると、核家族世帯は県・全国を上回っており58.1%で、単独世帯は県・全国を下回って、31.0%となっています。



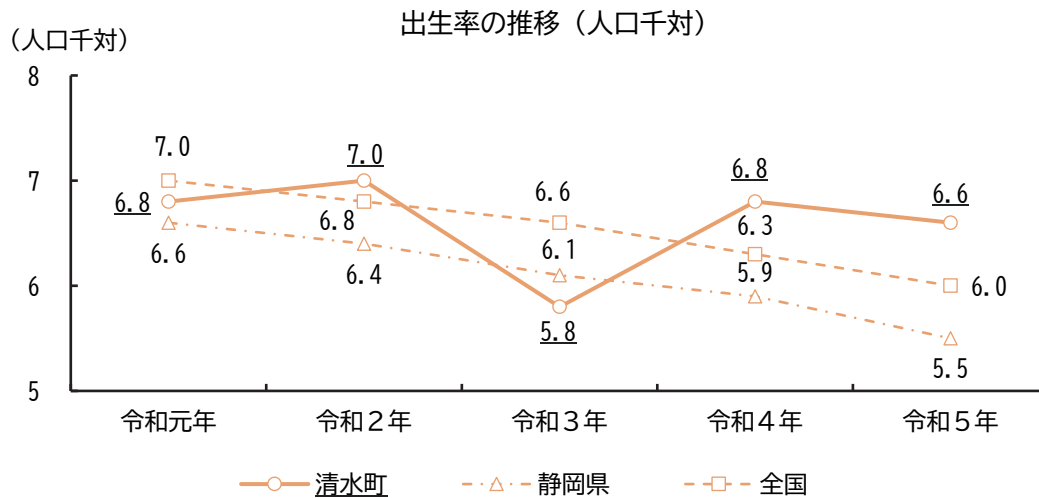
(3) 人口ピラミッド

人口ピラミッドをみると、男女とも50～54歳の人口が最も多くなっています。また、70歳以上になると、年齢が高くなるにつれて女性の人口が男性よりも上回っています。



(4) 出生率の推移

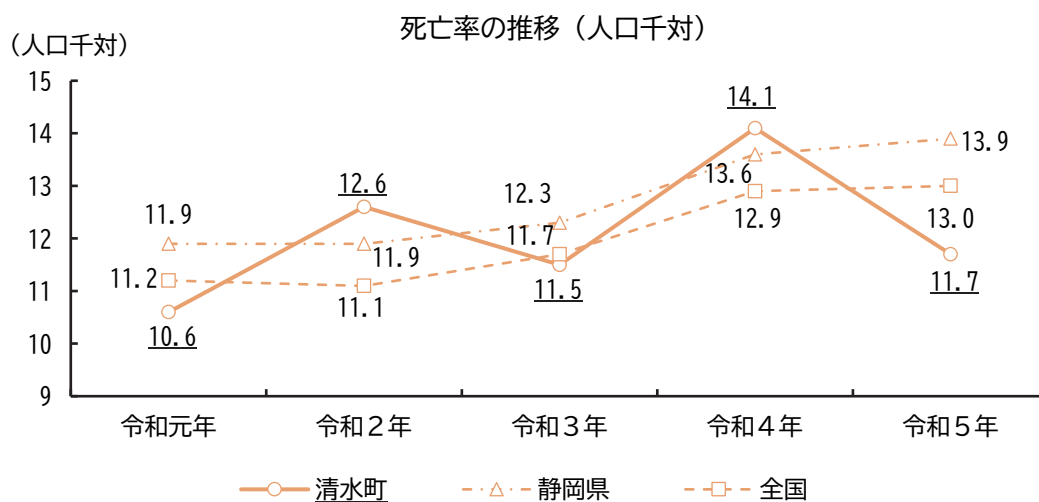
出生率をみると、横ばいで推移しています。令和5年の出生率は、6.6となっており、全国や県の平均と比べると高くなっています。



資料：静岡県人口動態統計

(5) 死亡率の推移

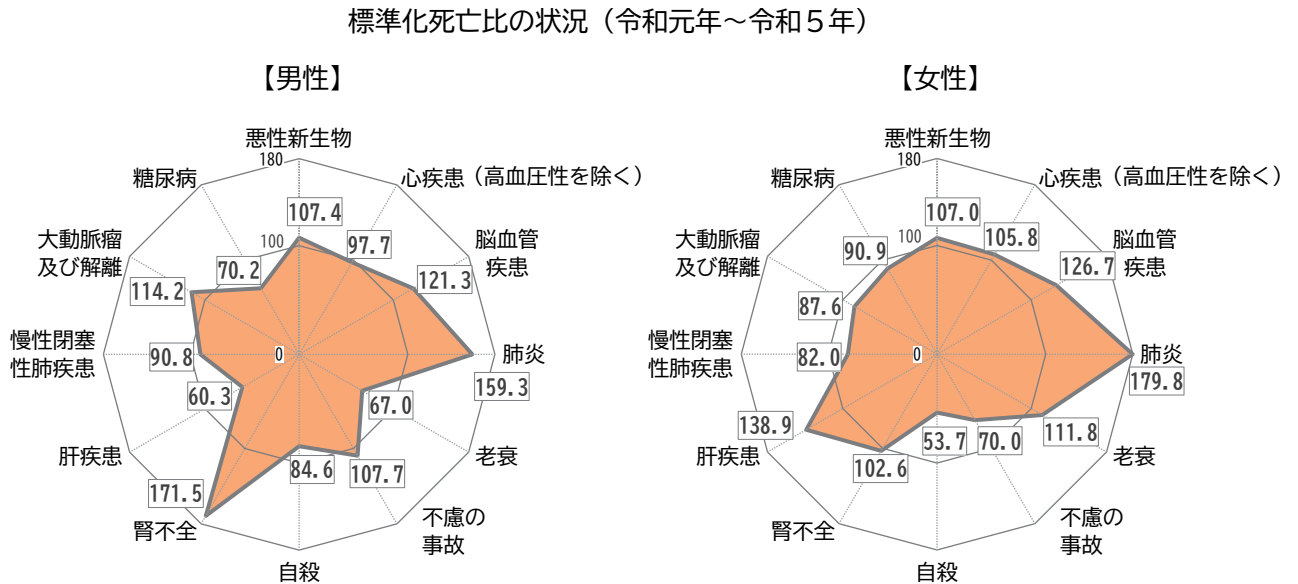
死亡率をみると、増減を繰り返しながら増加傾向となっています。令和5年では、11.7となっており、全国や県の平均と比べると低くなっています。



資料：静岡県人口動態統計

(6) 標準化死亡比の状況（令和元年～令和5年）

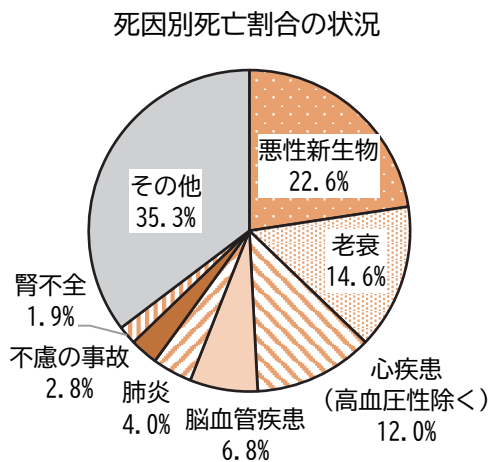
標準化死亡比の状況を見ると、男女ともに悪性新生物、脳血管疾患、肺炎、腎不全が県の平均に比べ高くなっています。また、女性に比べ男性では腎不全、大動脈瘤及び解離が、男性に比べ女性では肝疾患が高くなっています。



※ 静岡県を100とした値 資料：静岡県ホームページ（令和元年～令和5年）

(7) 死因別死亡割合の状況

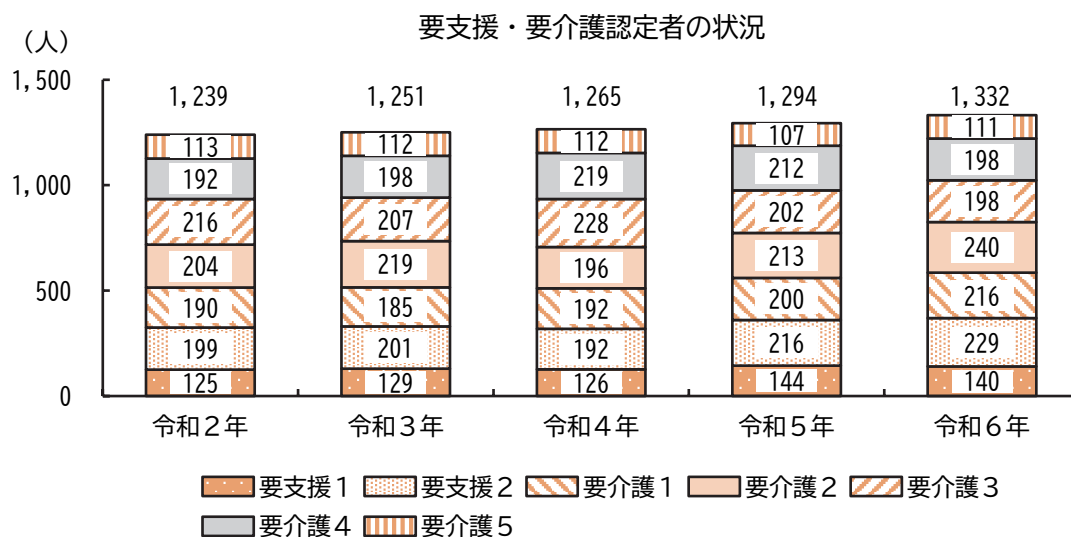
死因別死亡割合の状況を見ると、悪性新生物（がん）が最も多く22.6%で、次いで老衰が14.6%、心疾患（高血圧性を除く）が12.0%、となっています。



資料：令和6年 人口動態統計（厚生労働省）

(8) 要支援・要介護認定者の状況

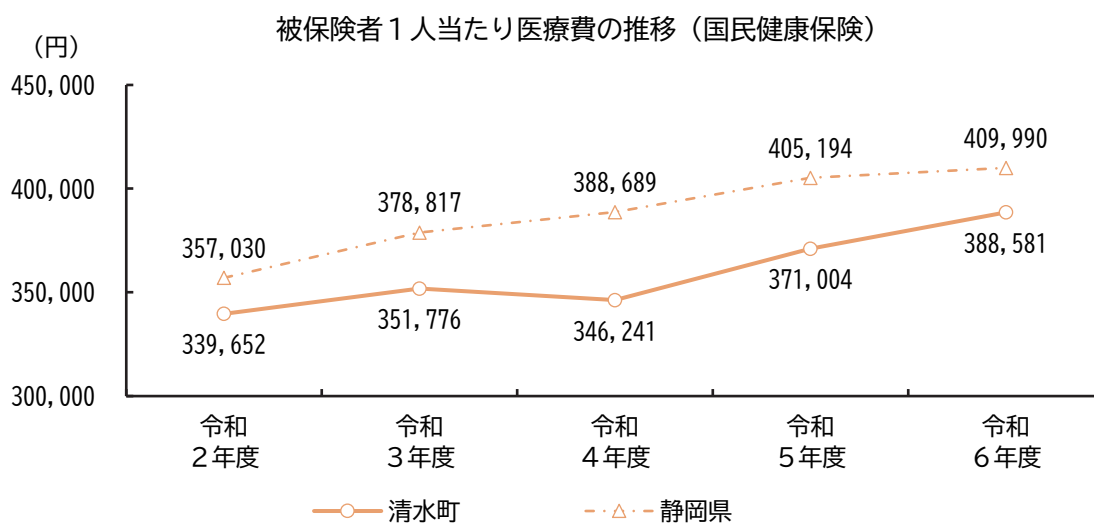
要支援・要介護認定者の状況をみると、増加傾向で推移しており、令和6年では1,332人となっております。



資料：介護保険事業報告月報（各年9月末日現在）

(9) 被保険者1人当たり医療費の推移（国民健康保険）

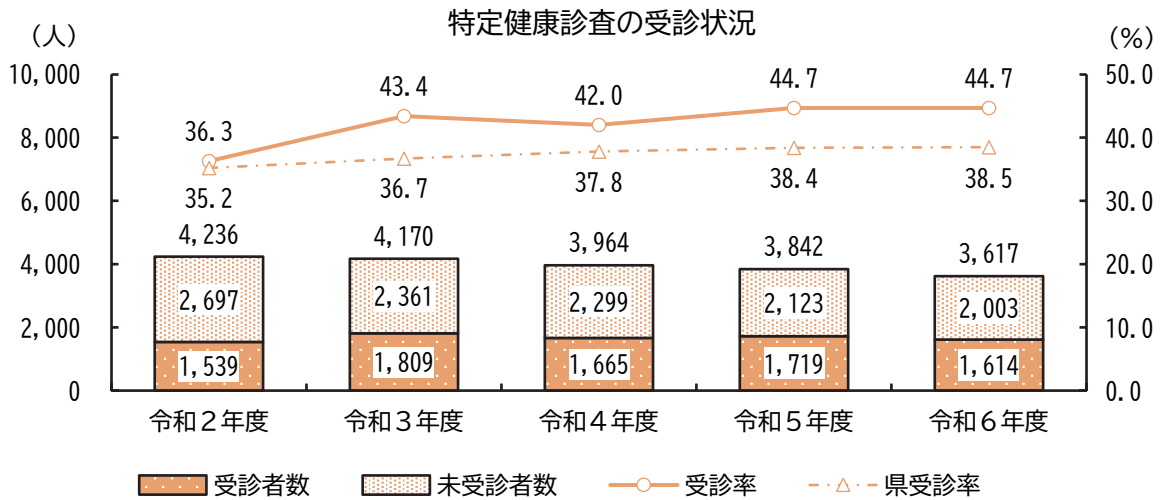
被保険者1人当たり医療費の推移をみると、上昇傾向にあります。静岡県と比較すると下回っています。令和6年度では388,581円となっております。



資料：静岡県国民健康保険団体連合会提供資料

(10) 特定健康診査の受診状況（国民健康保険）

特定健康診査の受診状況を見ると、受診率は令和2年度に比べ上昇し、令和6年度では44.7%となっており、受診率は、県と比較すると高くなっています。



資料：特定健康診査・特定保健指導実施結果報告

(11) がん検診の受診状況

がん検診の受診状況を見ると、受診率は全体的に減少傾向で推移しています。

がん検診の受診状況

単位：%

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
胃がん	5.5	7.7	7.8	7.3	6.8
子宮頸がん	11.9	15.4	15.3	15.2	15.4
肺がん	18.3	19.4	19.0	18.9	18.4
乳がん	8.8	12.8	11.1	12.2	10.5
大腸がん	13.1	14.2	13.9	13.7	13.0

資料：清水町健幸づくり課資料

(12) お達者年齢

お達者年齢は、令和5年で男性は79.1年、女性は84.6年となっており、静岡県 averages より男性は低くなっていますが、女性では高くなっています。

お達者年齢

単位：年

	令和3年	令和4年	令和5年
男性	79.0 (80.5)	78.8 (80.1)	79.1 (80.2)
女性	84.9 (84.7)	84.5 (84.3)	84.6 (84.3)

※ () 内は静岡県

※ お達者年齢とは、0歳からの平均自立期間（介護を受けたり病気で寝たきりになったりせず、自立して健康に生活できる期間）です。

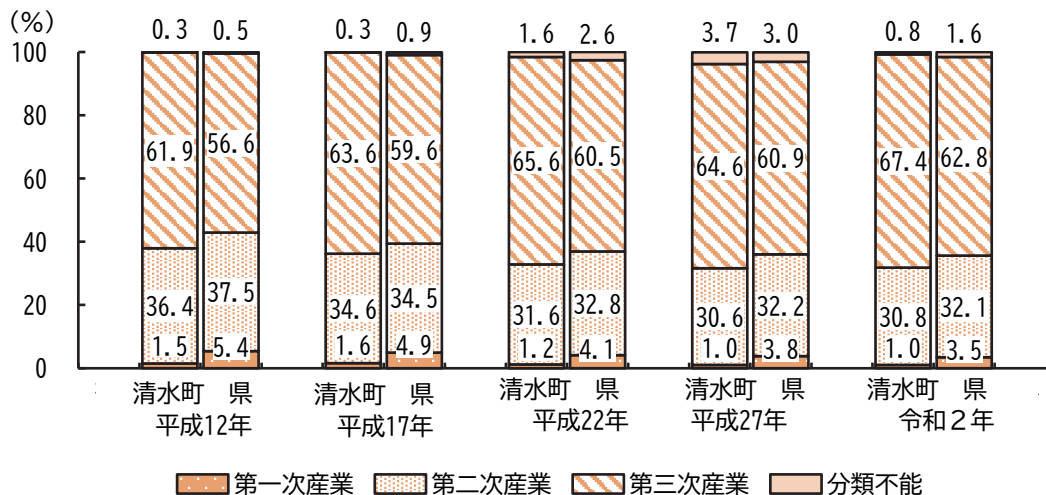
資料：「お達者年齢」市町別（静岡県）

(13) 食育

① 産業別就業率の推移

産業別就業率をみると、第3次産業が67.4%と増加しており、県と比べると高くなっています。

産業別就業率の推移



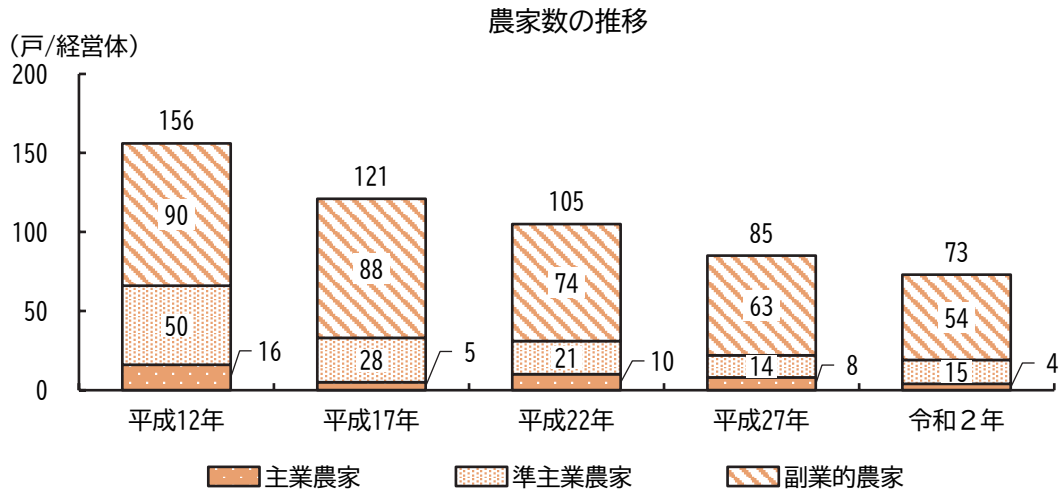
※ 第1次産業は農林漁業、第2次産業は鉱業、建設業、製造業、第3次産業は第1次産業、第2次産業以外の産業であり、主にサービス業等が含まれ、分類不能は記入不詳で分類できないものを表している。

※ 対象は15歳以上

資料：国勢調査

② 農家数の推移

農家数は減少しており、令和2年の農家数は73経営体となっています（平成12～27年は戸数、令和2年は経営体数）。

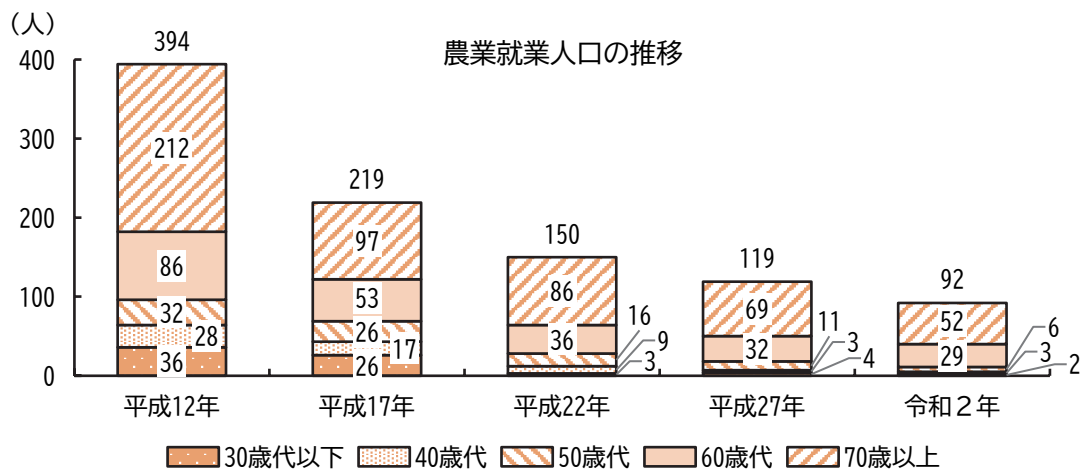


※ 主業農家：農業所得が主(世帯所得の50%以上が農業所得)で、1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体
 準主業農家：農外所得が主(世帯所得の50%未満が農業所得)で、1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体
 副業的農家：1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がない個人経営体

資料：令和5年版 清水町統計書

③ 農業就業人口（自営農業に主として従事した世帯員数）の推移

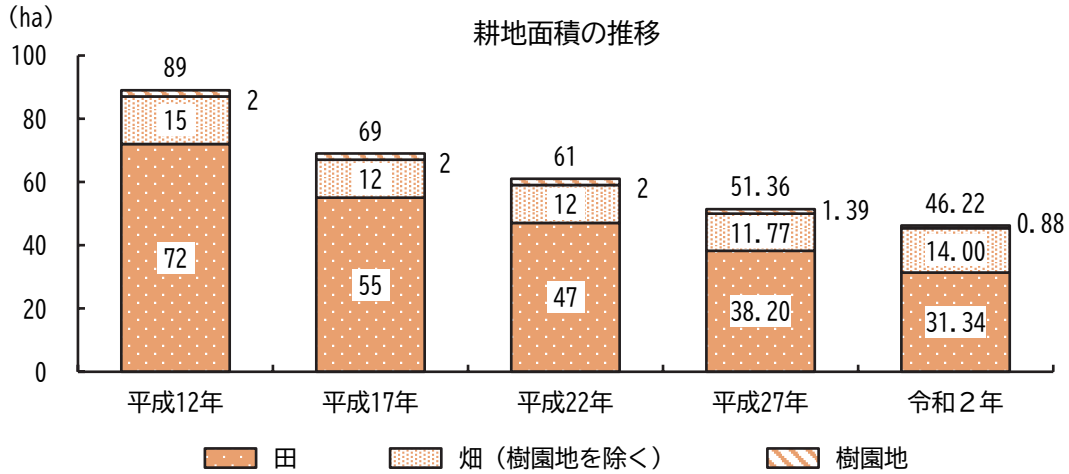
農業就業人口は減少しており、令和2年で92人となっています。



資料：令和5年版 清水町統計書（各年2月1日現在）

④ 経営耕地面積の推移

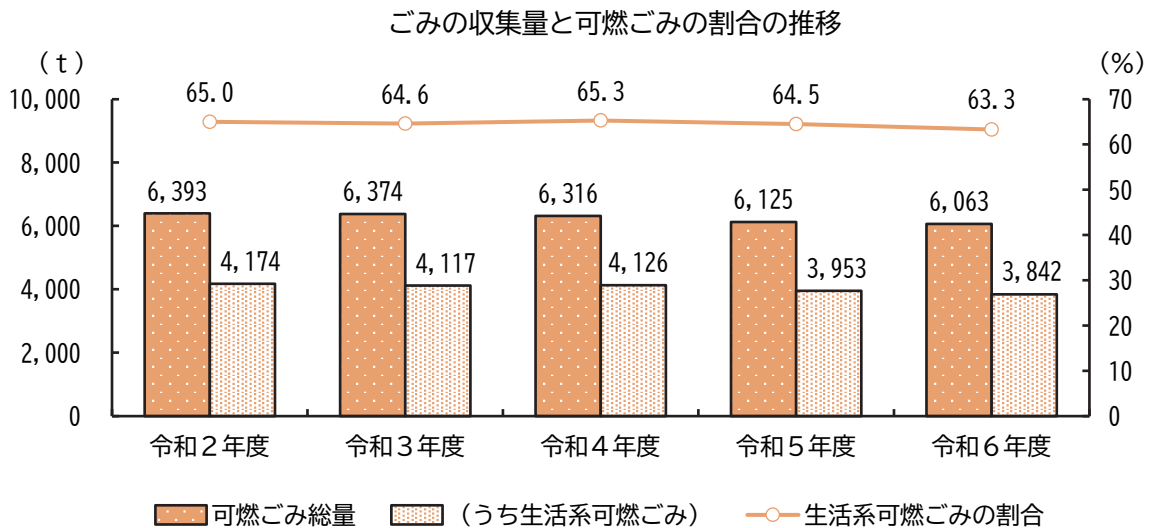
耕地面積をみると年々減少しており、令和2年では46.22haとなっています。



資料：令和5年版 清水町統計書（各年2月1日現在）

⑤ ごみの収集量と可燃ごみの割合の推移

ごみの収集量は年々減少しており、生活系可燃ごみは減少傾向がみられます。

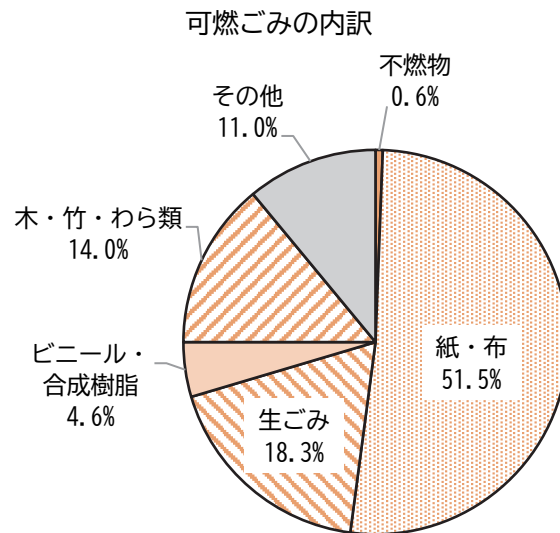


※ 総量に、事業系ごみ、家電、廃油は含まない。

資料：清水町くらし安全課

⑥ 可燃ごみの内訳

可燃ごみの内訳をみると、紙・布が51.5%と最も高く、次いで生ごみが18.3%、木・竹・わら類が14.0%となっています。



※ 生ごみとは、台所からでる野菜等のくずや食べ物の残り等のごみのこと。

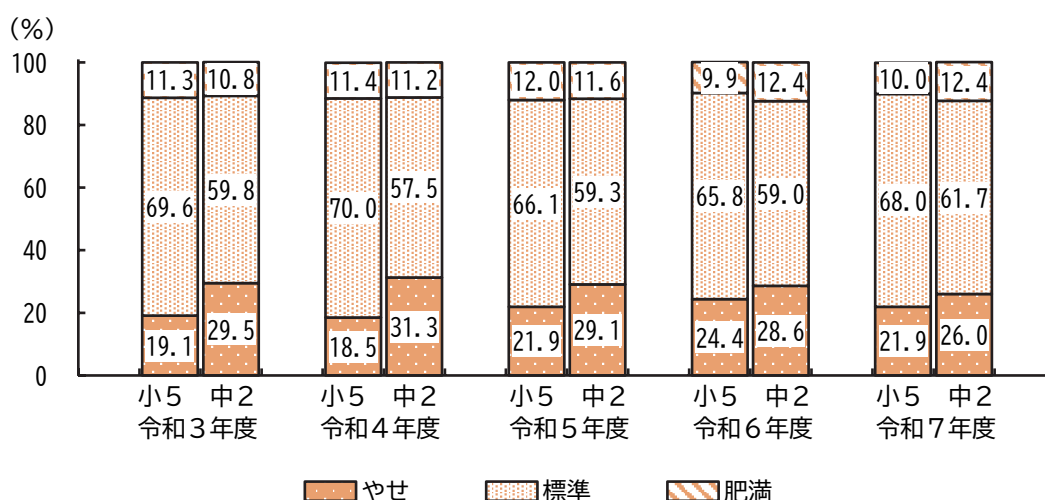
資料：清水町くらし安全課（令和7年2月調査）

⑦ 肥満度の推移（小学5年生・中学2年生）

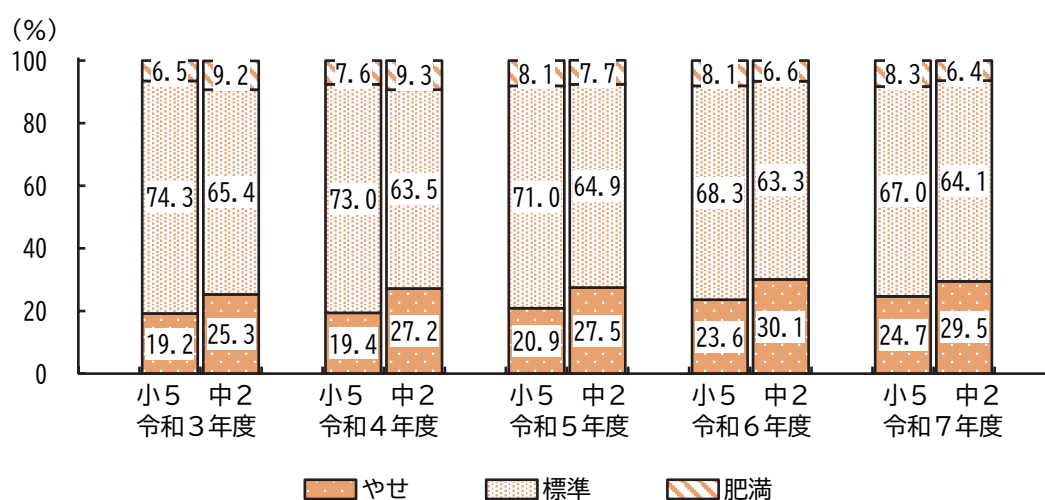
小学5年生と中学2年生の肥満度を比較すると、男子では、小学5年生に比べ中学2年生では、やせと肥満が増加、女子ではやせが増加するものの、肥満は減少しています。

また経年の推移をみると、男子の小学5年生については、やせは増加傾向、標準は減少傾向にありましたが、中学2年生については、やせは減少傾向、肥満は増加傾向にあります。女子では小学5年生、中学2年生ともにやせは増加傾向であり、小学5年生では標準が減少傾向、中学2年生は肥満が減少傾向にあります。

肥満度の推移（男子）



肥満度の推移（女子）



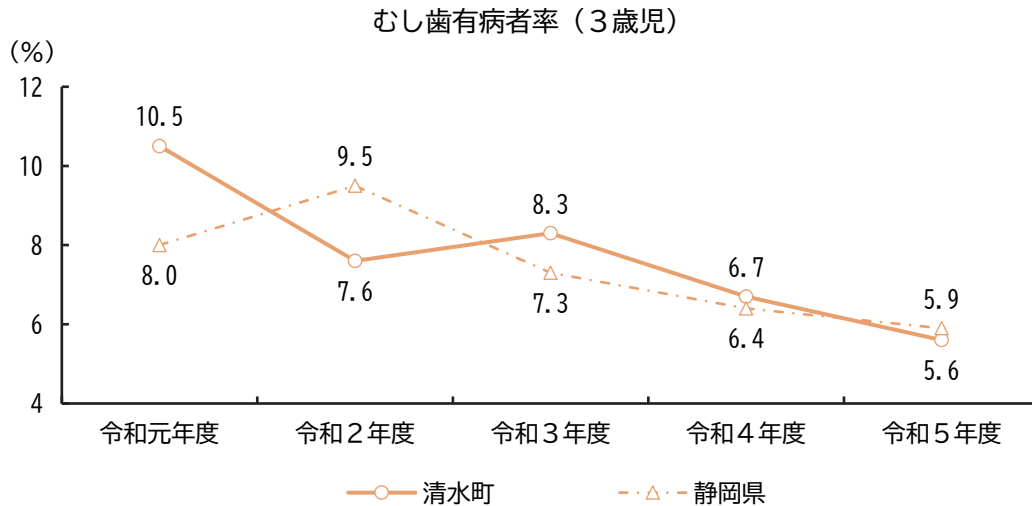
※ 「やせすぎ」「やせている」を「やせ」とし、「軽度肥満」「中等度肥満」「高度肥満」を「肥満」としている。
 肥満度：村田式による肥満度算出 $肥満度 = (体重 - 標準体重) / 標準体重 \times 100$
 「高度肥満」50%以上、「中等度肥満」30%～49%、「軽度肥満」20%～29%、「標準」-9%～+19%、「やせている」-19%～-10%、「やせすぎ」-20%以下

資料：駿東地区教育協会 定期健康診断結果

(14) 歯科

① 乳歯のむし歯がある子※の割合（3歳）について

3歳児のむし歯のある子の割合は、年度により増減はあるものの近年は減少傾向にあります。

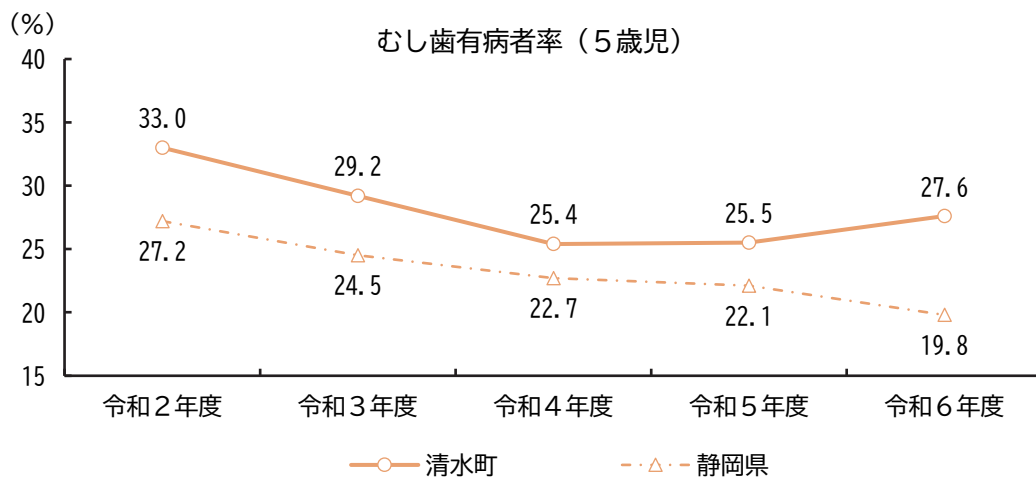


※むし歯がある子：むし歯の経験がある者

資料：静岡県3歳児健康診査結果〔歯科〕

② 乳歯のむし歯がある子※の割合（5歳）について

5歳児のむし歯のある子の割合は、令和2年度と比較すると、令和6年度は5.4ポイント減少していますが、県と比較すると近年は上昇傾向となっています。



※ むし歯がある子：むし歯の経験がある者

資料：静岡県5歳児歯科調査結果

2 アンケート調査からみる現状

(1) 調査の概要

① 調査対象

- ・ 幼稚園・保育所（園）保護者：清水町在住の幼稚園・保育所（園）に通う5歳児の保護者
- ・ 小学5年生保護者：清水町在住の小学5年生の保護者
- ・ 中学2年生保護者：清水町在住の中学2年生の保護者
- ・ 高校2年生：高校2年生の生徒
- ・ 一般：清水町在住の18歳以上を無作為抽出

② 調査方法

- ・ 幼稚園・保育所（園）保護者：幼稚園・保育所（園）による配布・WEBによる回答
- ・ 小学5年生保護者：WEBによる回答
- ・ 中学2年生保護者：WEBによる回答
- ・ 高校2年生：WEBによる回答
- ・ 一般：郵送による配布・回収及びWEBによる回答

③ 回収状況

調査票の種類	配布数	回収数	回収率
幼稚園・保育所（園）保護者	187件	135件	72.2%
小学5年生保護者	255件	175件	68.6%
中学2年生保護者	276件	184件	66.7%
高校2年生	161件	151件	93.8%
一般	1,200件	432件	36.0%

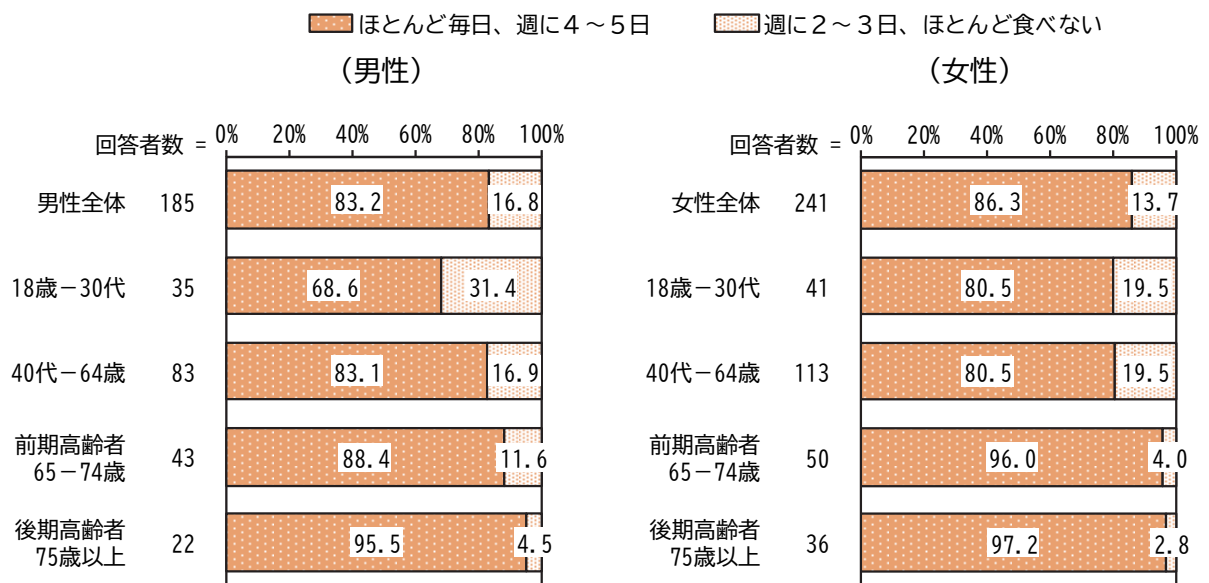
(2) 栄養・食生活・食育

① 朝食の摂取状況（一般、幼保・小中学生の保護者）

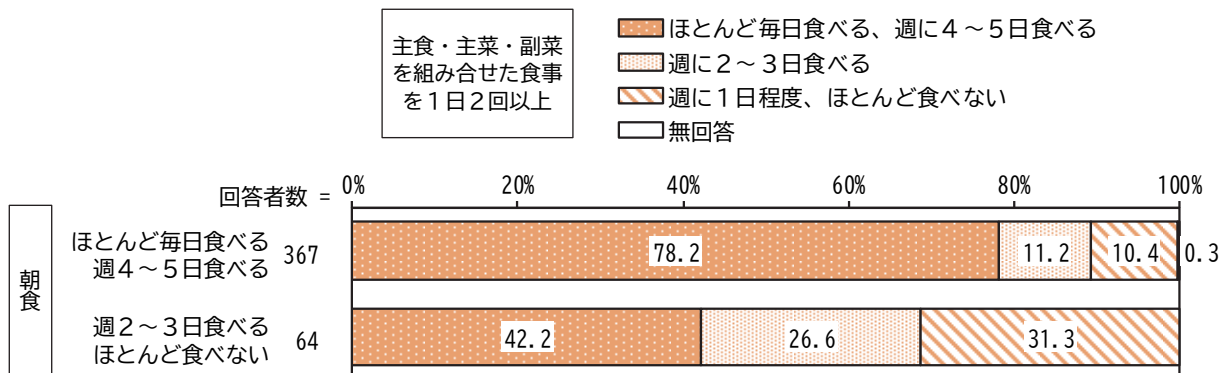
朝食を「ほとんど毎日、週4～5日食べる」割合をみると、高齢者の摂取割合が高いため、全体では男女とも80%を超えています。

一方、朝食は食べているものの、主食・主菜・副菜を「週1日程度食べる、ほとんど食べない」人は10.4%います。

【朝食の摂取状況】



【朝食の摂取と主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上摂取している状況】



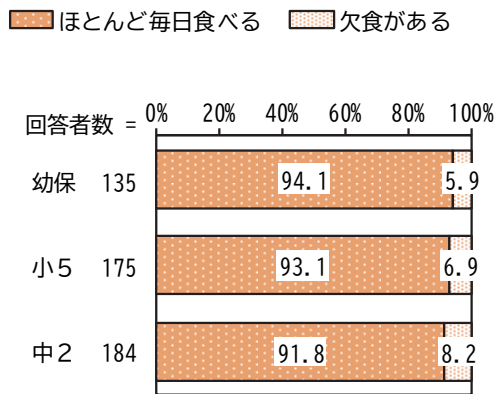
② 朝食の摂取状況（幼保・小中学生の保護者）

こどもの朝食摂取状況は、幼保・小中学校いずれも「ほとんど毎日食べる」が90%を超えています。保護者の朝食習慣との関係では、こどもが「ほとんど毎日食べる」場合、保護者が「ほとんど毎日、週4～5日食べる」割合が84.5%に対し、こどもが欠食がある場合では65.7%です。

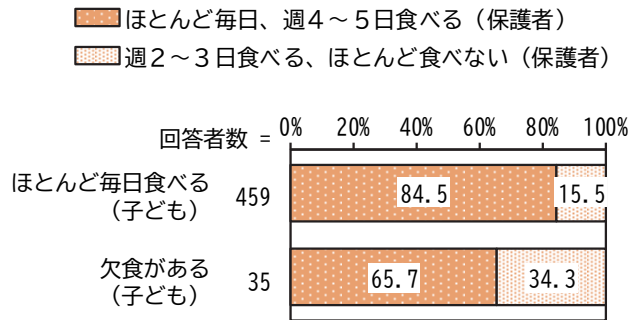
保護者が「週2～3日食べる、ほとんど食べない」のうち、こどもが朝食を「ほとんど毎日食べる」割合が15.5%に対し、欠食がある割合は34.3%となっており、保護者の朝食習慣がこどもの朝食摂取に関連があることがわかります。

また、こどもが“今朝、何を食べたか”と赤・緑・黄色の3色の食品群で保護者にたずねた結果では、「ほとんど毎日食べる」こどもでは赤緑黄色の3色がそろっている割合が35.5%に対し、欠食がある場合では6.9%と低く、黄色のみ（主食）という回答が65.5%と高い結果でした。

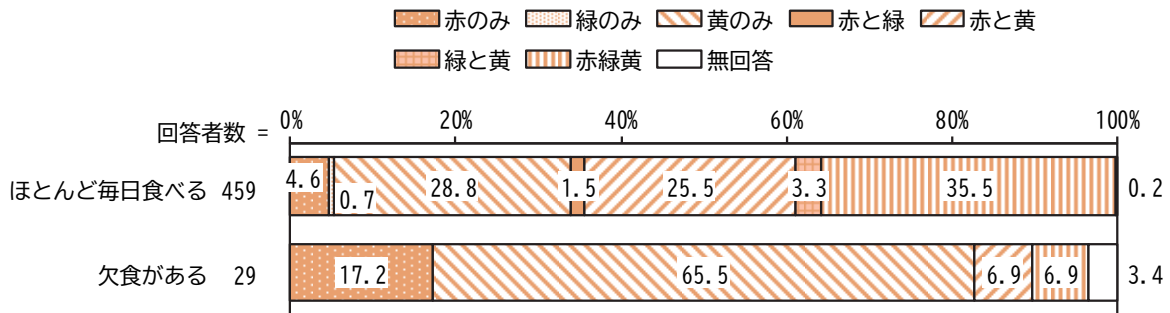
【こどもの朝食習慣】



【こどもと保護者の朝食習慣の関係】



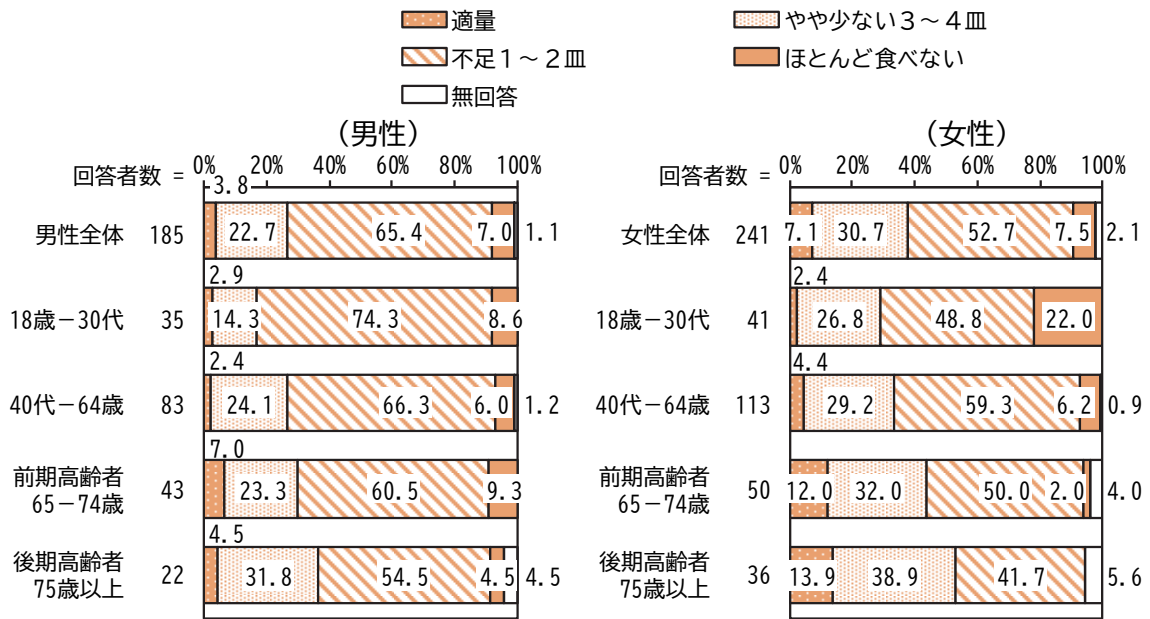
【今朝、何を食べたか】



③ 1日の野菜の摂取状況（一般）

野菜の摂取量は、【1皿は小鉢1個分（約70g）】として食べた量を計算しています。生活習慣病予防のためには、1日350gの野菜摂取（きのこ、海草類含む）が望ましいとされていますが、国民健康・栄養調査（令和5年）では20歳以上の野菜摂取量の全国平均値は256.0g（男性：262.2g、女性：250.6g）です。

これに対し、清水町では1日「1～2皿」の割合が最も高く、男性全体では65.4%、女性全体は52.7%でした。後期高齢者（75歳以上）ではその割合がやや減少し、1日「3～4皿」の割合が高い結果です。



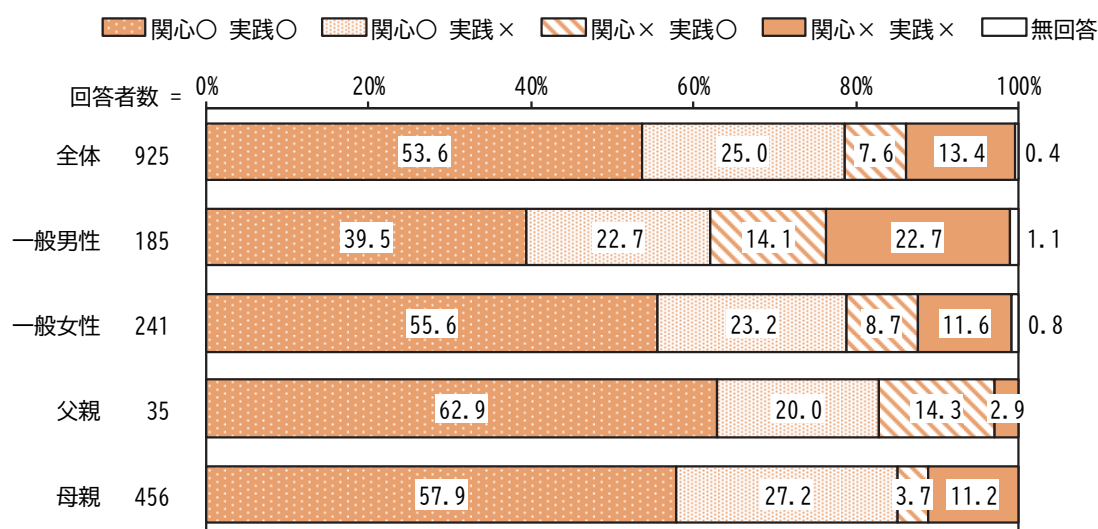
④ 食育の関心度と食生活改善の実践度（一般・幼保、小中学生保護者）

食育に関心があり、食生活改善を「実践している：関心○実践○」の割合は53.6%、「実践していない：関心○実践×」割合は25.0%、食育への関心はなく食生活改善を「実践している：関心×実践○」割合は7.6%、「実践していない：関心×実践×」割合は13.4%でした。

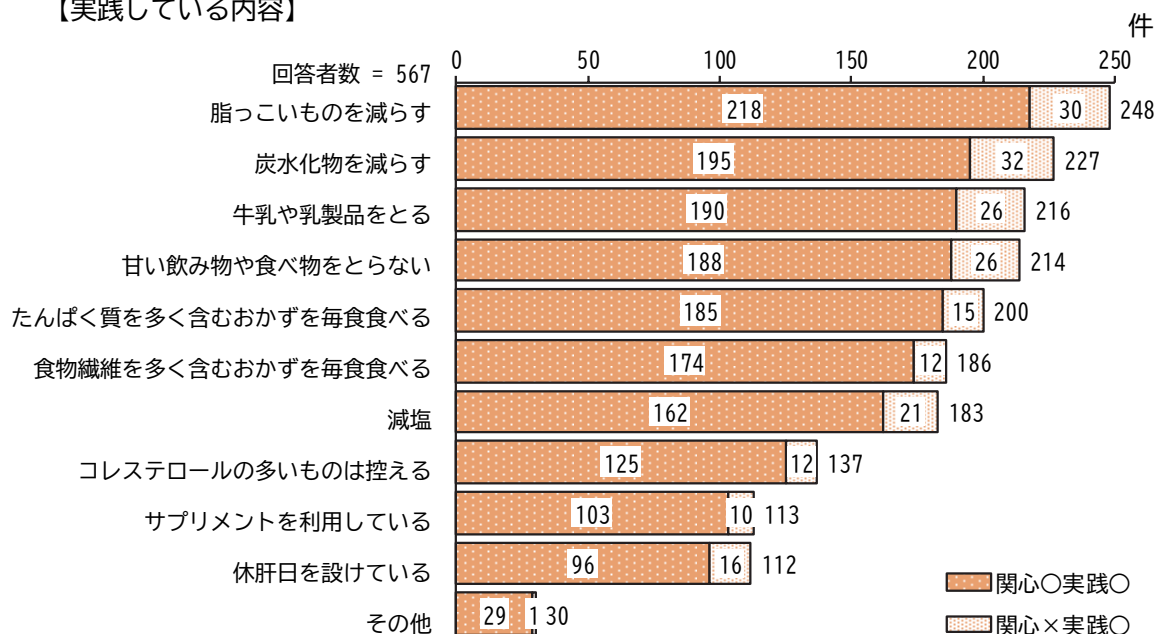
母親の「関心○実践○」の割合が57.9%と高く、一般男性は39.5%と低いこと、母親の「関心×実践○」の割合が3.7%と低く、一般男性は14.1%と高いこと、一般男性は「関心×実践×」の割合が22.7%と高いことが関連がありました。

「関心○実践○」496人「関心×実践○」70人に「どのようなことを実践しているか」複数選択の回答結果では、脂っこいものや炭水化物、甘いものなどエネルギー摂取に気を付けるが多く、野菜と主菜の摂取は「関心○実践○」の人の方が「気を付けている」という回答が「関心×実践○」より多く、有意な差がありました。

【食育の関心度と食生活改善の実践度】

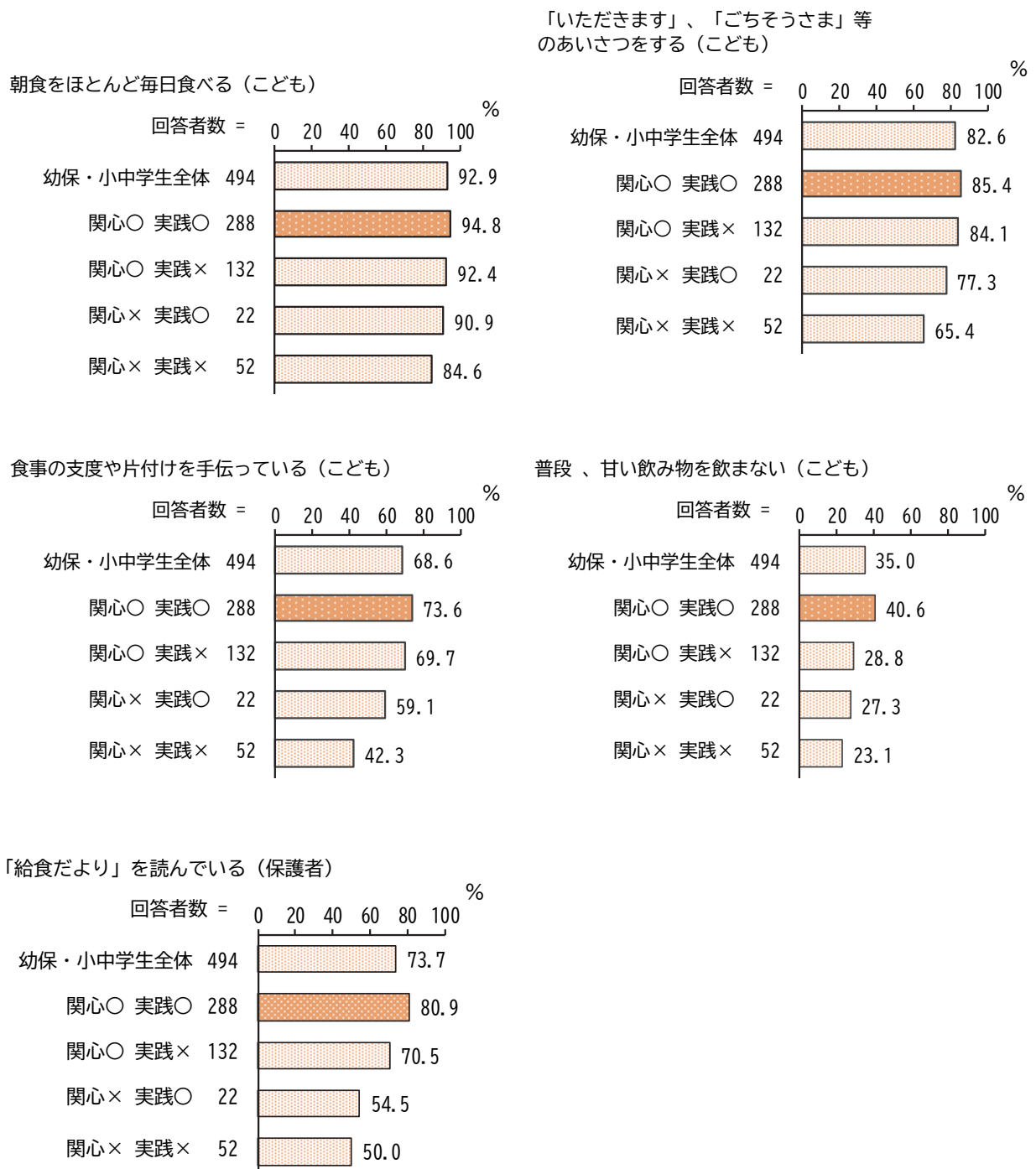


【実践している内容】



⑤ 食育の関心度と食生活改善の実践度とこどもの食育との関係（幼保・小中学生保護者）

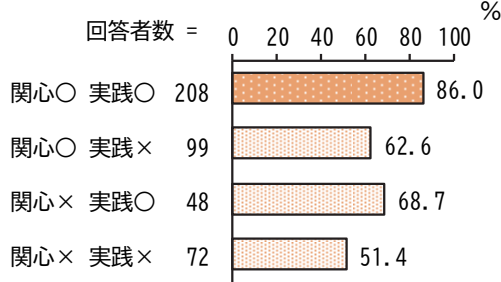
こどもの食育に関する項目は「朝食をほとんど毎日食べる」割合92.9%に対して、「食事の挨拶」82.6%、「手伝いをする」68.6%、「甘い飲み物を飲まない」34.9%、「給食だよりの確認」73.7%は低くなっています。しかしながら、「食育に関心があり、食生活の改善を実践している」では、「食事の挨拶」85.4%、「手伝いをする」73.6%、「甘い飲み物を飲まない」40.6%、「給食だよりの確認」80.9%となっており、保護者の食育への関心が高いほど、こどもの食育の実践度も高くなっています。



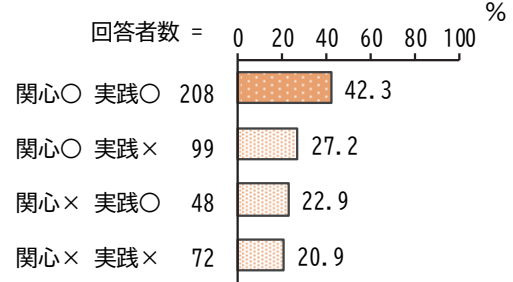
⑥ 食育の関心度と食生活改善の実践度と生活習慣との関係（一般）

幼保・小中学生保護者と同様に、「食育の関心があり、食生活改善を実践している：関心○、実践○」ほど、運動習慣や食品摂取状況、食育に関する項目の実施状況の割合は高くなっています。

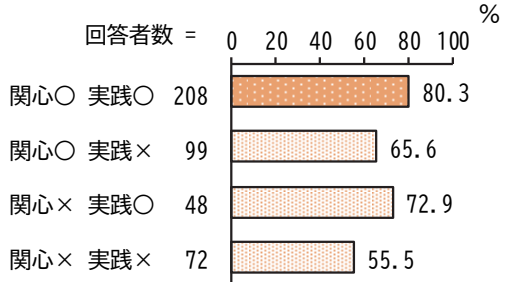
主食・主菜・副菜がほとんど毎日、週4～5日食べる



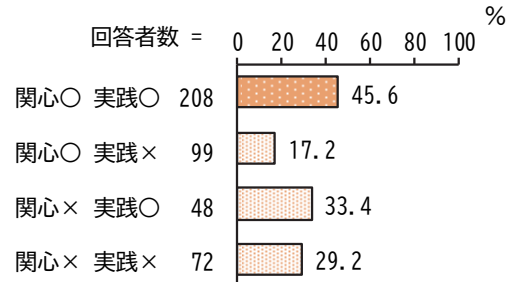
野菜料理を3～4皿以上食べる



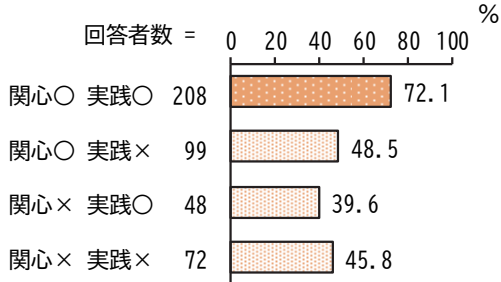
よく噛んで味わって食べるどちらかといえば当てはまる



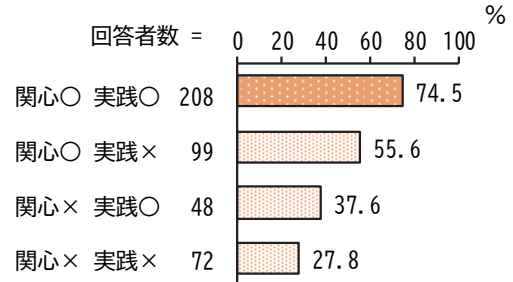
ほとんど毎日、週3～4日運動している



行事食実施あり、どちらかといえばあり



地産地消利用あり、どちらかといえばあり

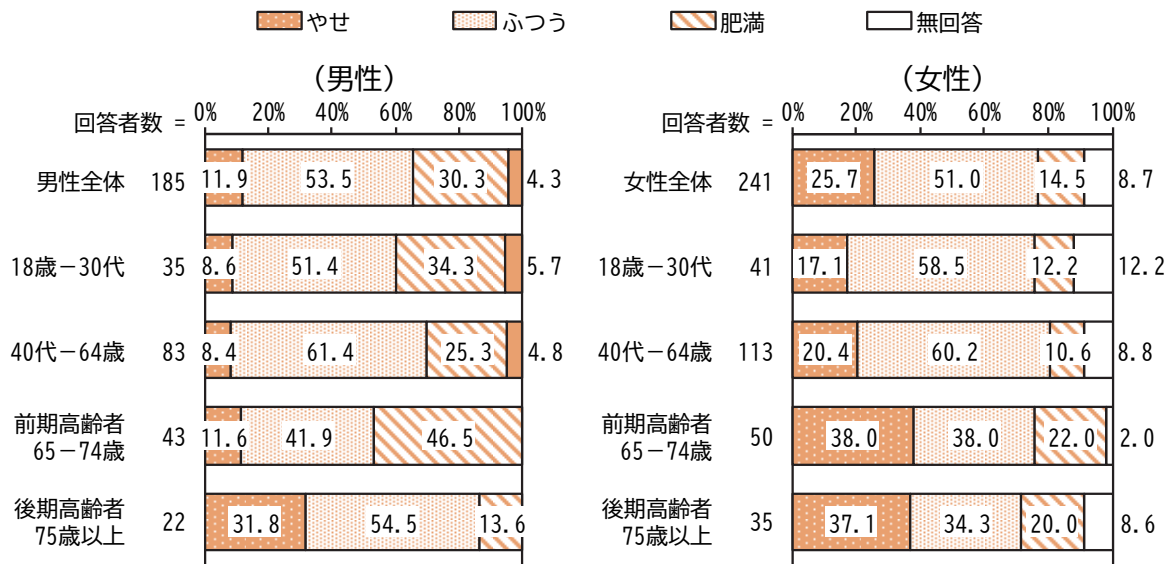


⑦ 体格（BMI）の状況（一般）

BMIの判定は、「日本人の食事摂取基準（2025版）」の年齢区分目標値に基づき、ふつう（適正範囲）は18～49歳：18.5～24.9、50～64歳：20.0～24.9、65歳以上：21.5～24.9としています。

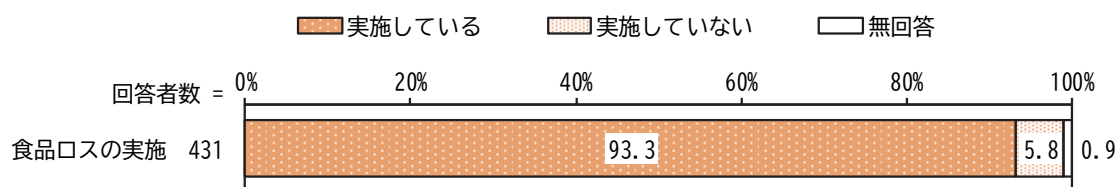
全体では、BMI 25以上の肥満は男性30.3%、女性14.5%で、やせはそれぞれ11.9%、25.7%でした。

年齢区分では、男性では40代～64歳のふつう61.4%、前期高齢者（65～74歳）の肥満46.5%、後期高齢者（75歳以上）のやせ31.8%が他の区分より割合が高く、前期高齢者（65～74歳）はふつう41.9%と低いことが、有意差に関係がありました。女性では40代～64歳でふつうが60.2%に対し、前期高齢者（65～74歳）のふつうが38.0%だったことが有意差に関係しました。

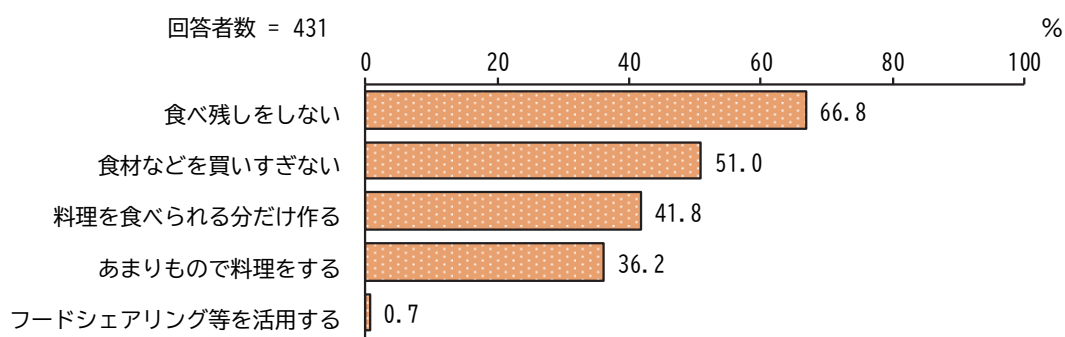


⑧ 食品ロス削減に関する取組（一般、幼保・小中学生の保護者）

食品ロス削減については、「食べ残しをしない」「食材などを買いすぎない」「料理を食べられる分だけ作る」など食材を無駄にしないようなんらかの工夫をしている割合が93.3%となっています。



【家庭で行っていること】



(3) 身体活動・運動

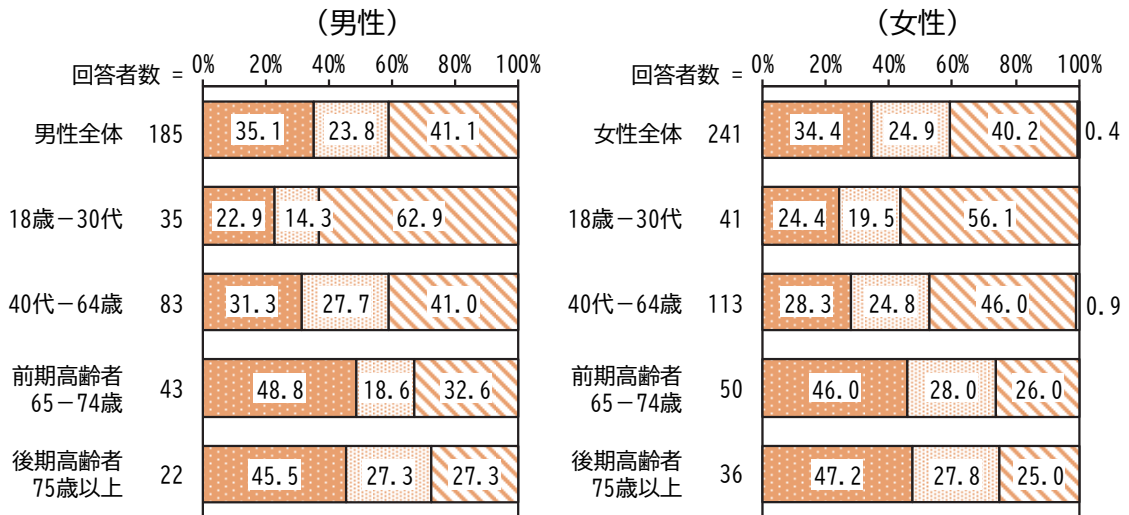
① 運動並びに日常歩数の状況（一般）

運動は男女とも似たような結果で、「ほとんど毎日、週3～4日行っている」人が男性全体で35.1%、女性全体では34.4%でした。令和5年の国民健康・栄養調査の運動習慣のある者の割合（全国値：男性36.2%、女性28.6%）と比較すると、男性は同程度、女性はやや多いようです。年代別では、国民健康・栄養調査と同じような傾向があり、18歳～30代は「運動していない」人が多く、年齢があがるにつれ運動している人が増加しており、世代間で有意な差がありました。

日常歩数は、男女とも世代間に有意な差はなく、「4,000歩未満」の回答割合は、男性全体で34.1%、女性40.7%でした。なお、補足として運動習慣、日常歩数とBMIの関係を調査しましたが、有意な関係はありませんでした。

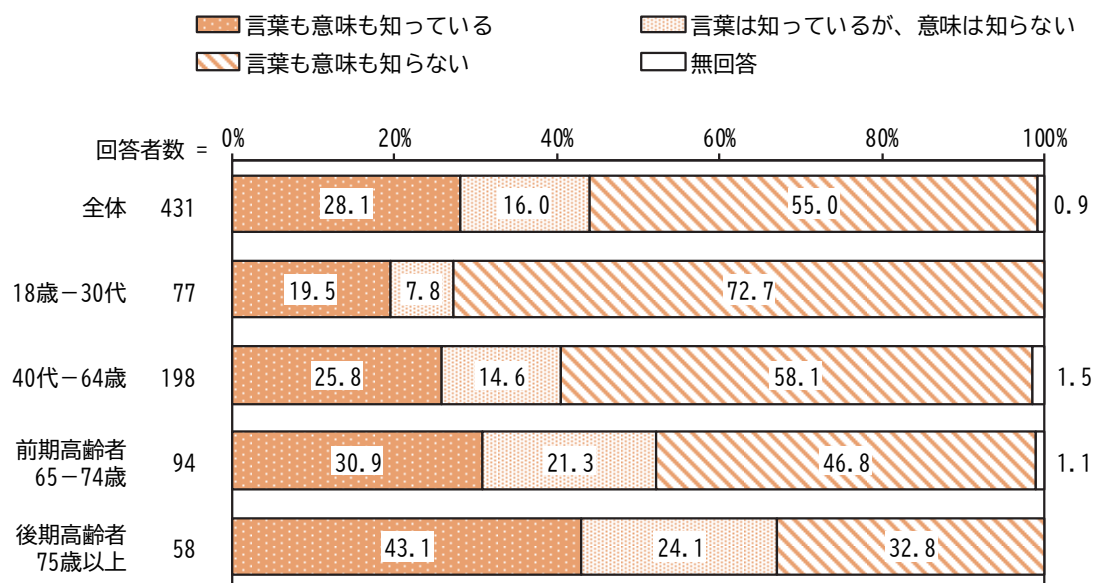
【運動の実施状況（一般）】

ほとんど毎日、週3～4日運動している
 週1～2日運動している
 運動していない
 無回答



② ロコモティブシンドローム（ロコモ）の認知度（一般）

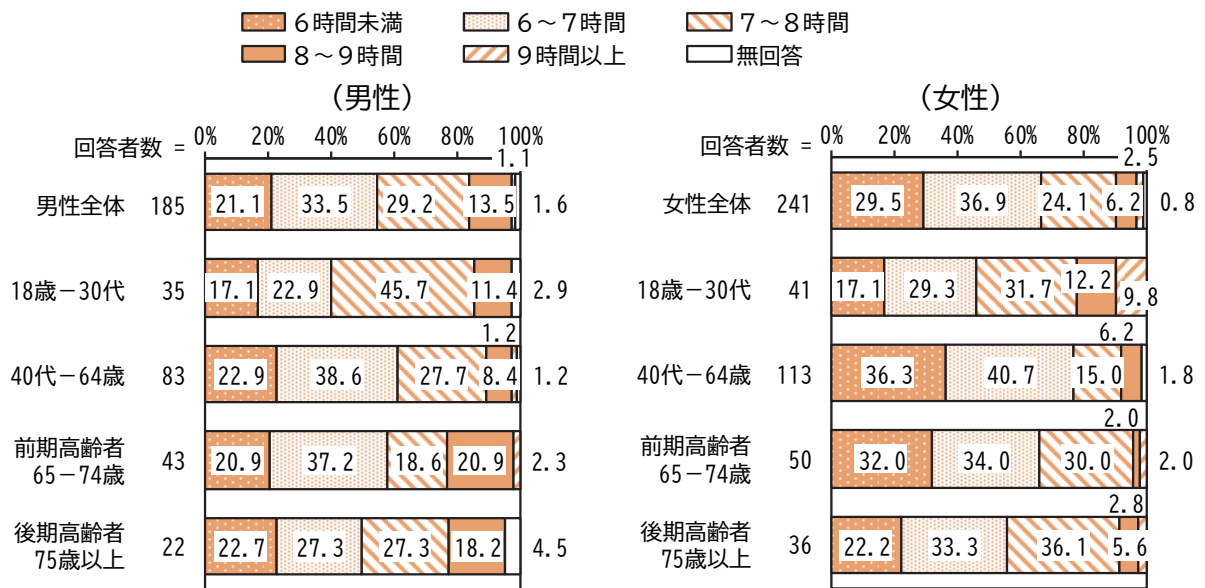
全体では「言葉も意味も知っている」の割合が28.1%、「言葉は知っているが、意味は知らない」の割合が16.0%、「言葉も意味も知らない」の割合が55.0%となっています。年齢があがるにつれ認知度は増加していますが、18歳～30代の「言葉も意味も知らない」の割合が72.7%と有意に高くなっています。ロコモは若い頃からの予防が大切であり、全年代での認知度を高める必要があります。



(4) 休養・こころの健康

① 睡眠による休養の状況（一般）

1日の平均睡眠時間が「6時間未満」の人は、男性ではどの年代でも同じで、「8～9時間」の割合が前期高齢者（65～74歳）・後期高齢者（75歳以上）で他の世代よりやや増加していますが、世代間に有意な差はありませんでした。女性は、40代～64歳で「6時間未満」が36.3%と高く、「7～8時間」が15.0%と他の世代より低く、世代間に有意な差がありました。



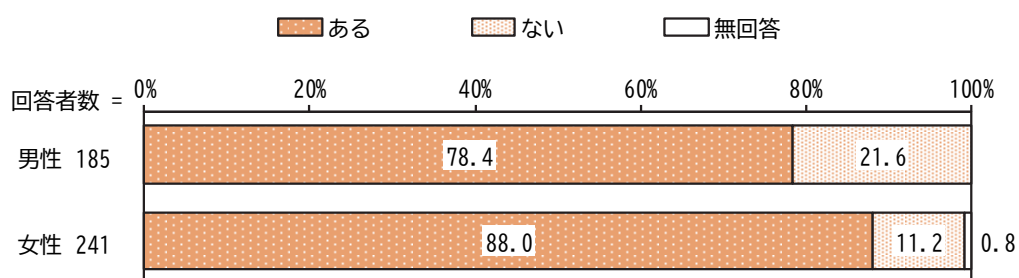
② 日常生活におけるストレス等の状況（過去1か月）（一般）

ストレスが「大いにある」「多少ある」を合わせた割合は、男性全体では63.7%、女性では77.6%となっています。「大いにある」の割合は男女差はありませんが、女性の方が「多少ある」の割合が多く、有意な差がありました。

世代間では、全体では「あまりない」「ほとんどない」を合わせた割合が男性では34.1%、女性では20.7%に対し、男性の前期高齢者（65～74歳）・後期高齢者（75歳以上）はそれぞれ51.1%、50.0%と高く、女性では30.0%、22.2%と低くなっています。

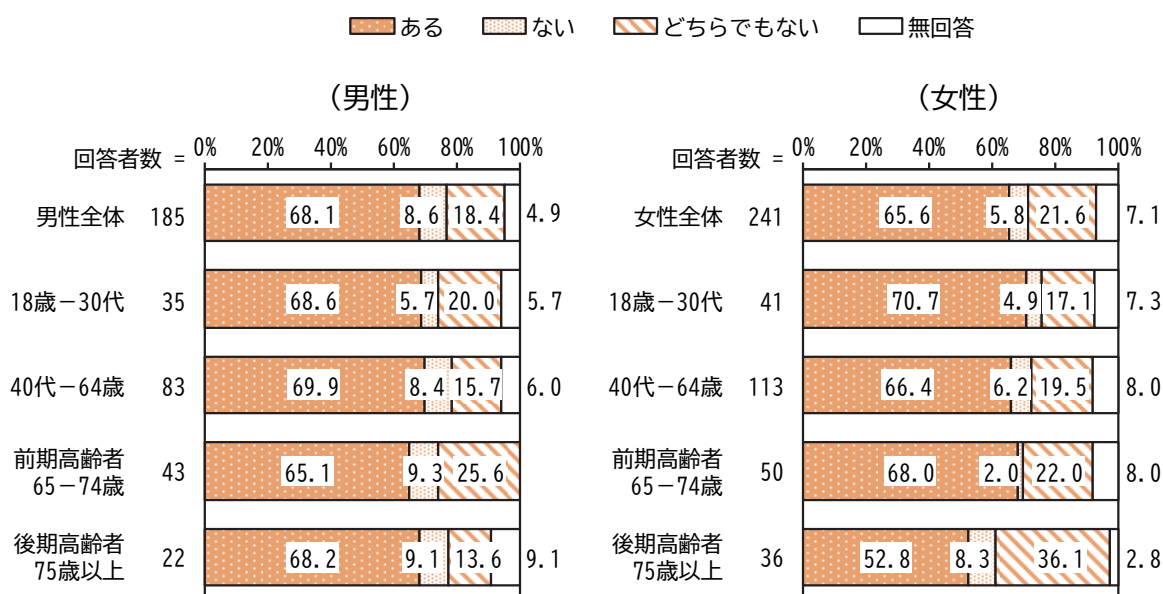
③ 相談できる人・場所の有無（一般）

「ある」の割合は男性78.4%、女性88.0%となっています。



④ 生きがいや楽しみの有無（一般）

「ある」の割合は男性68.1%、女性65.6%となっています。年齢が高いほどその割合はやや減少し、後期高齢者（75歳以上）の女性は52.8%となっていますが、世代間に有意な差はありませんでした。



(5) 飲酒・喫煙

① 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人の有無（一般）

飲酒が「毎日」「週5～6日」ある人の割合は、男性22.2%、女性9.1%でした。そのうち、純アルコール※男性40g以上、女性20g以上を1回に飲んでいる人は、男性37.7%、女性53.5%となっています。

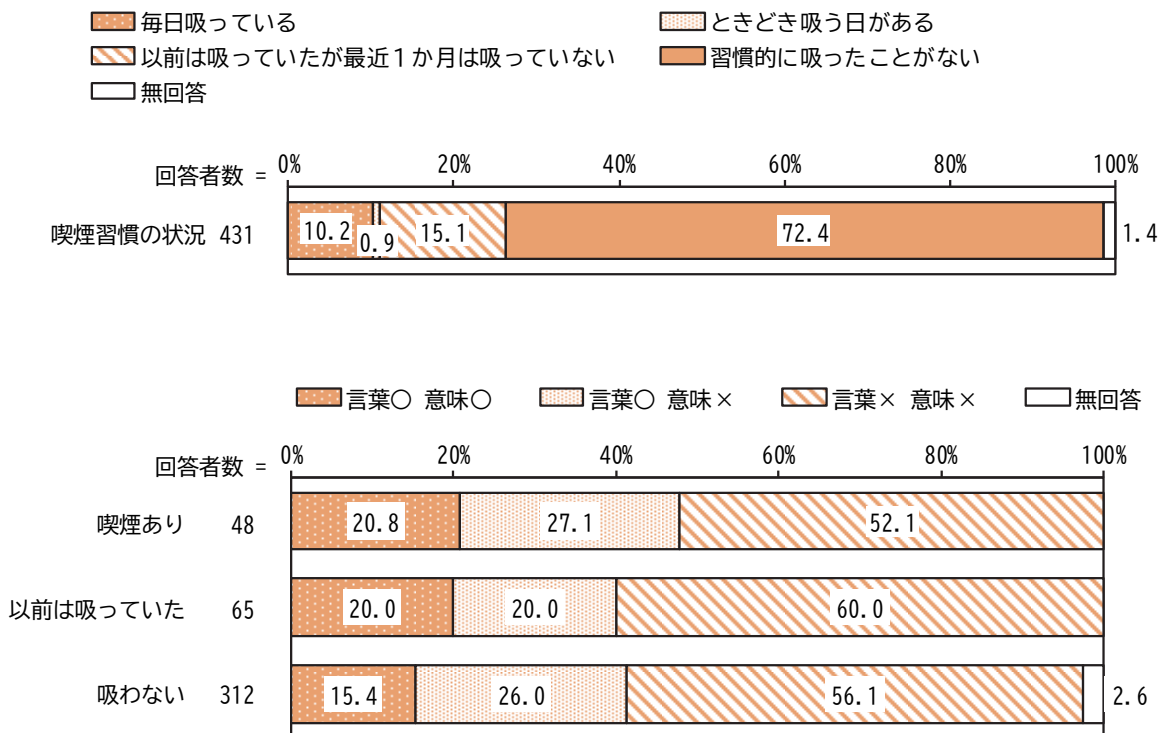
※純アルコール20g = 日本酒1合、ビールの場合500ml

② 喫煙状況（一般）

「毎日喫煙している」「ときどき吸っている」人を合わせると喫煙習慣のある人は全体の11.1%となっています。

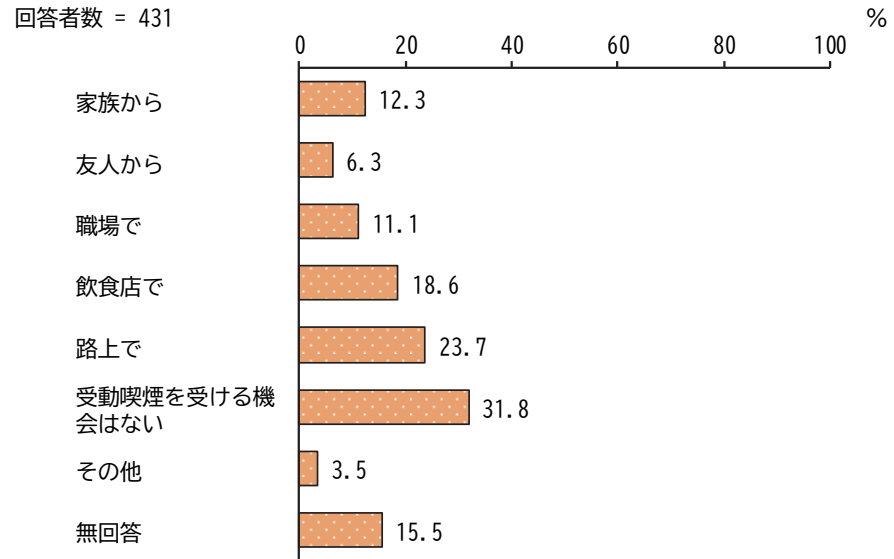
『COPD（慢性呼吸器疾患）』の「言葉も意味も知らない」割合は、喫煙習慣のある人、以前吸っていたがここ1か月は吸っていない人、吸ったことがない人、いずれでも50%を超えていました。

【喫煙習慣とCOPDの認知度】



③ 受動喫煙の状況（一般）

受動喫煙を受ける機会は、「路上で」の割合が23.7%と最も高く、次いで「飲食店で」の割合が18.6%、「家族から」の割合が12.3%となっています。



(6) 歯・口腔

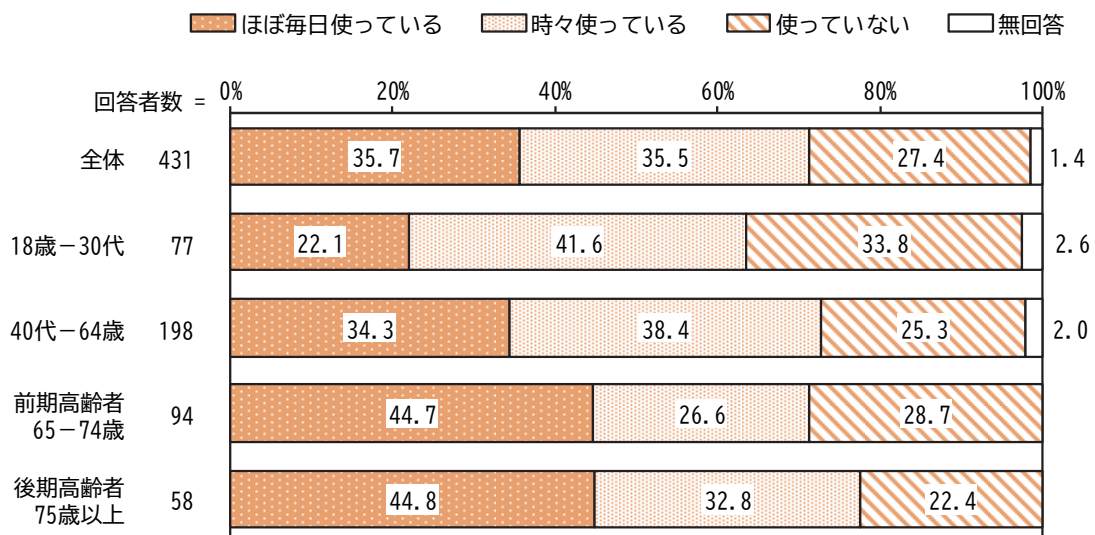
① 自分の歯の本数と咀嚼状況（一般）

「自分の歯が20本以上ある人」の割合は、40代～64歳が87.9%、前期高齢者（65～74歳）74.5%、後期高齢者（75歳以上）55.2%となっています。

一方、自分の歯は20本以上あっても、「一部噛めない食べ物がある」「噛めない食べ物が多い」と回答している人の割合は、40代～64歳が15.6%、前期高齢者（65～74歳）24.5%、後期高齢者（75歳以上）25.9%となっています。

② 歯間清掃用具の使用状況（一般）

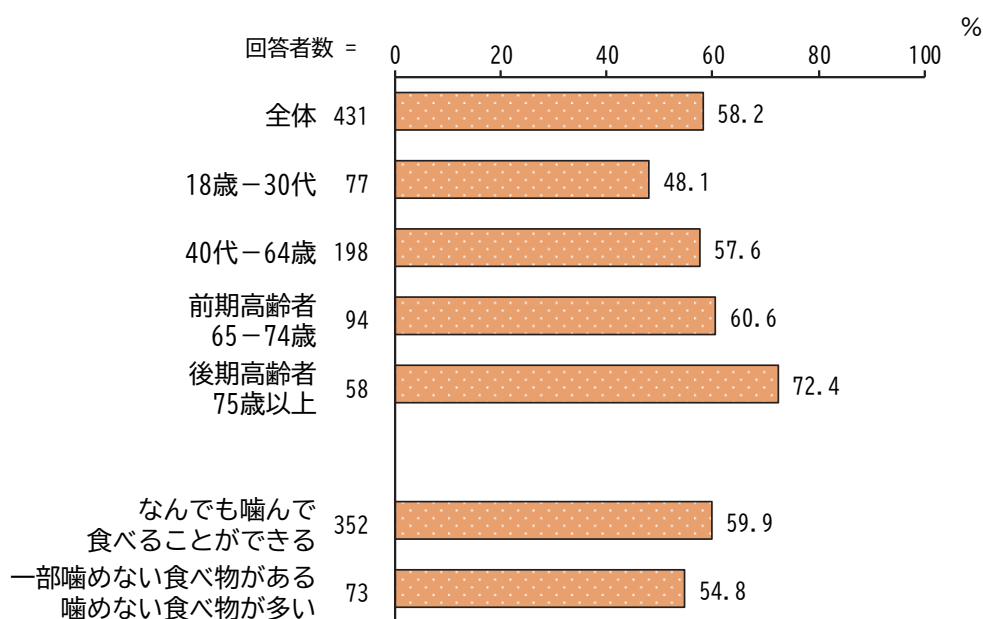
歯間清掃用具を「ほぼ毎日使用している」の割合は、18歳～30代で22.1%、40代～64歳は34.3%、前期高齢者（65～74歳）44.7%、後期高齢者（75歳以上）44.8%となっています。



③ 年1回以上歯科健診を受診している人の状況（一般）

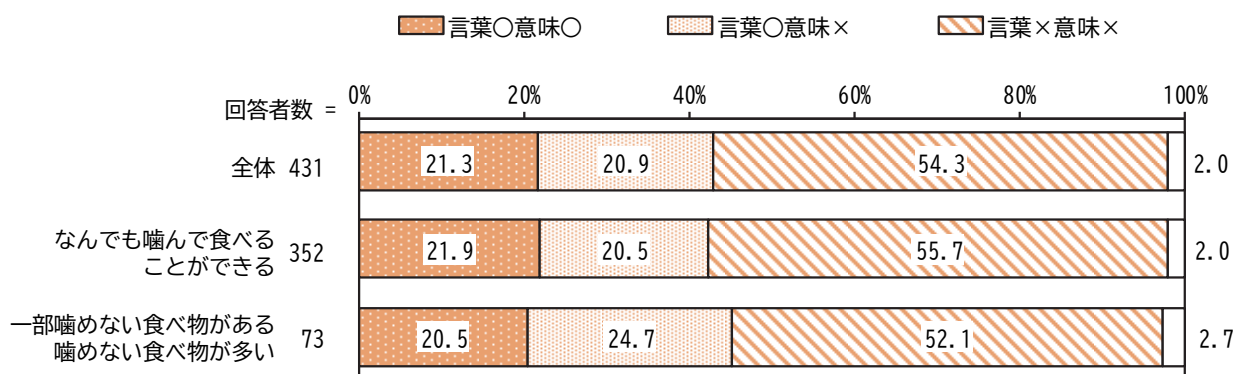
定期的な歯科健診を受けている割合は全体で58.2%となっており、年齢が上がるにつれ「受けている」割合は増加しています。

咀嚼状況と受診をしている人の関係では、「なんでも噛んで食べることができる」と回答している人の受診率は59.9%、「一部噛めない食べ物がある／噛めない食べ物が多い」の回答では54.8%となっています。



④ オーラルフレイルの認知状況（一般）

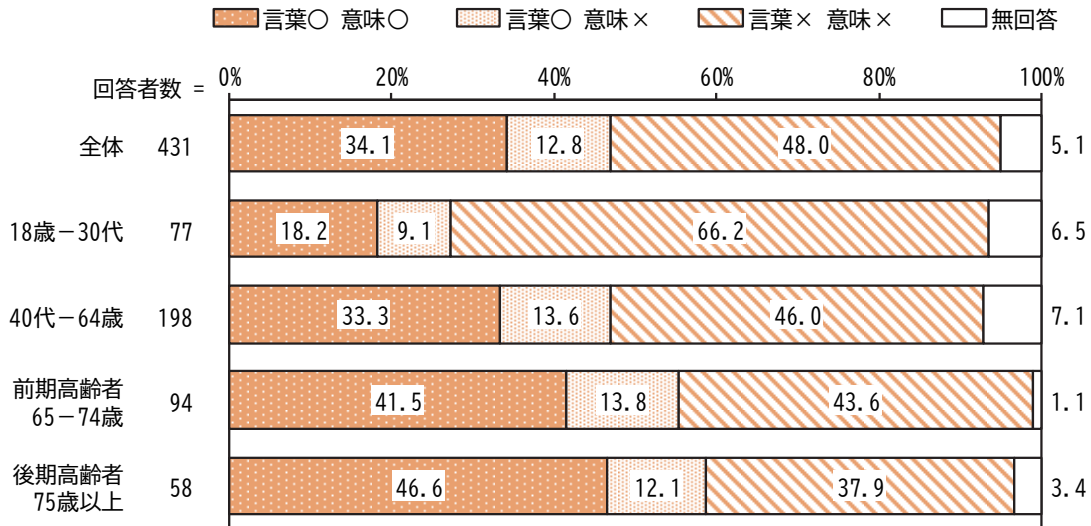
オーラルフレイルの「言葉も意味も知っている」の割合は21.3%、「言葉は知っている」の割合は20.9%、「知らない」の割合は54.3%となっています。



(7) 健康管理

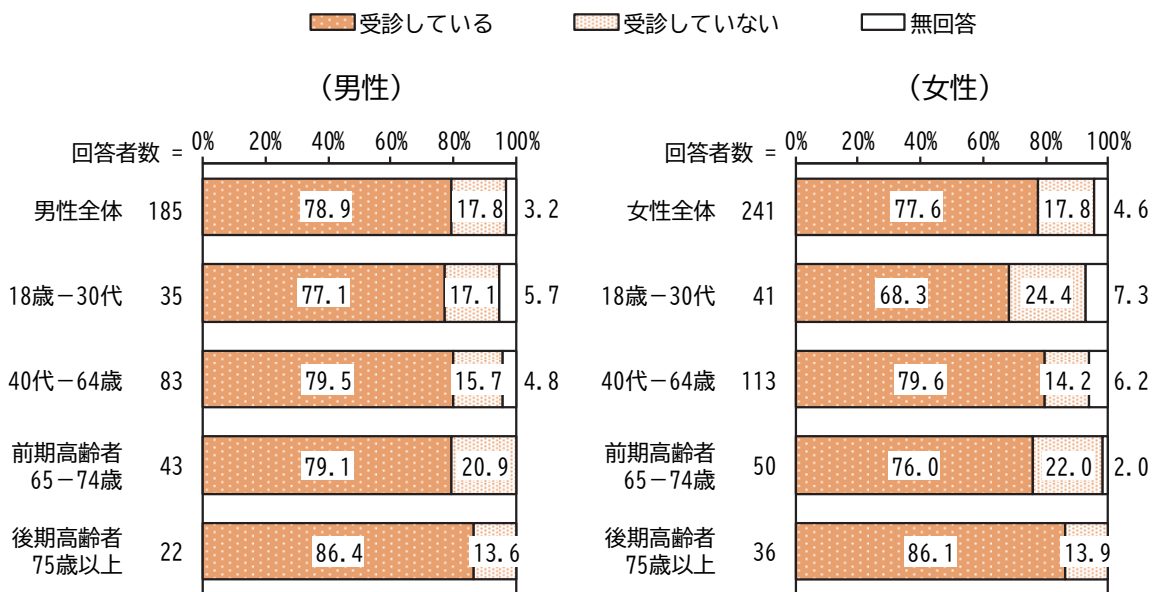
① フレイルの認知度（一般）

フレイルの「言葉も意味も知っている」の割合は34.1%、「言葉は知っているが、意味は知らない」の割合は12.8%、「言葉も意味も知らない」の割合は48.0%となっています。年齢があがるにつれ認知度の割合は増加していますが、40代～64歳、前期高齢者（65～74歳）で「言葉も意味も知らない」の割合が4割を超えています。



② 年1回以上健診・がん検診等を受診している人の状況（一般）

健診・がん検診等を「受診している」の割合は、男性で78.9%、女性で77.6%となっています。



3 前計画の評価

計画の評価指標については、策定当初値（令和元年度）と現状値（令和7年度）を比較し、以下の基準により判定を行いました。

判定	内容
◎	現状値が目標値を達成している
○	現状値が目標値を達成していないが、改善している
△	現状値が策定当初値と変わらないもの
×	現状値が策定当初値より悪化したもの
－	評価困難（現状値を把握できず評価不可能なもの）

(1) 第4次清水町健康増進計画の評価

健康増進計画の策定時に定めた指標は、合計47指標です。総括的な状況を整理すると、「◎」評価が19指標、「○」評価が10指標で、約6割の指標が改善傾向となっています。

分野では、特に、“身体活動・運動”や“休養・こころの健康”、“地域のつながりの強化および活動拠点の整備”での「◎」及び「○」評価が目立ちます。一方、「×」評価は計15指標で31.9%となっています。中でも“栄養・食生活”で「×」評価が多く、朝食摂取率の低下、肥満男性の増加、食事内容のバランスの乱れがみられ、食生活やライフスタイルなどの多様化が影響をしていると考えられます。

今後は、健康づくりのための食生活に関する知識について、情報提供や環境整備を推進していく必要があると考えられます。

また、“各種健(検)診の充実”や“生活習慣病の予防及び重症化リスクの低減”で「×」評価は多く、引き続き各種健(検)診の受診率向上をめざしていく必要があります。

① 生活習慣の改善

分野	目標指標		策定当初値	現状値	目標値	出典	評価
				令和7年度	令和7年度		
栄養・食生活	毎日朝食を食べる人の割合	保育所	96.9%	94.1%	100%に近づける	R7健康づくりに関するアンケート調査	×
		幼稚園	95.7%				×
		小学生	97.1%				93.1%
		中学生	93.8%	91.8%			
		20～30代	63.9%	59.5%			75%以上
	肥満者の割合の減少（男性）	30代	35.3%	40.9%	28%以下	×	
		40代	32.0%	21.4%	28%以下	◎	
		50代	40.0%	28.3%	35%以下	◎	
		60代	20.0%	29.2%	現状維持	×	
	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上ほぼ食べる人の割合	18歳以上	54.1%	52.2%	70.0%以上	R7健康づくりに関するアンケート調査	×
野菜料理を1日に3～4皿以上食べている人の割合		31.2%	32.7%	50%以上		○	

分野	目標指標		策定当初値	現状値	目標値	出典	評価
				令和7年度	令和7年度		
身体活動・運動	休日に60分以上外遊びする子（乳幼児）		68.8%	調査なし	80%以上	R7保育所（園）入所児童の家庭における食育に関するアンケート	-
	ふだん、運動をしている人の割合		42.3%	58.9%	50%以上	R7健康づくりに関するアンケート調査	◎
	週1回以上運動習慣のある人	青年期	30.1%	33.9%	50%以上		○
		壮年期	25.9%	54.8%			◎
		中年期	41.1%	55.5%			◎
「ロコモティブシンドローム」という言葉を知っている人の割合		36.8%	44.1%	80%以上	○		
二つこの健康・休養	睡眠による休養が十分とれていない人の割合		25.0%	23.7%	15%以下	R7健康づくりに関するアンケート調査	○
	生きがいや楽しみのある人の割合		※1 58.5%	66.4%	100%に近づける		◎
	悩みや不安を相談できる人や場所がある		77.1%	84.0%	80%以上		◎
飲酒・喫煙	喫煙習慣のある人		13.7%	11.1%	12%以下	R7健康づくりに関するアンケート調査	◎
	生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者※2	男性	11.8%	17.8%	10%以下		×
		女性	16.9%	8.7%	13%以下		◎
「COPD」という言葉を知っている人の割合		45.8%	41.8%	80%以上	×		
歯・口腔	乳歯のむし歯の経験がある子（5歳）		42.9%	27.6% (令和6年度)	35%以下	R7静岡県5歳児歯科健康診査結果	◎
	1年に1回以上、定期的に歯科健診を受診している人の割合		54.3%	58.2%	65%以上	R7健康づくりに関するアンケート調査	○
	進行した歯周炎にかかっている人の割合		48.4%	49.8% (令和6年度)	35%以下	R6歯科口腔健診結果	×
	永久歯のむし歯の経験がある子	小学校6年生	24.7%	15.8%	20%以下	R7学校歯科健康診査結果	◎
		中学校3年生	30.1%	38.0%	20%以下		×
	歯間清掃用具の使用割合（35歳以上）		66.1%	73.7%	70%以上	R7健康づくりに関するアンケート調査	◎
「オーラルフレイル」という言葉を知っている人の割合		※3 13.1% (23.0%)	42.2%	40%以上	R7健康づくりに関するアンケート調査	◎	

※1 現計画書では、策定当初値 80.1%と記載していましたが、数値に誤りがありましたので 58.5%に変更し、評価をしました。

※2 1日当たりの純アルコール摂取量が男性 40g 以上、女性 20g 以上の者（純アルコール 20g：日本酒 1 合程度）

※3 令和2年度歯科保健アンケート調査の数値を策定当初値としています。括弧書きについては、「言葉は知っている」「言葉も意味も知っている」の選択肢を合算しており、評価をしています。

② 生活習慣病の発症予防及び重症化予防の推進

分野	目標指標	策定当初値	現状値	目標値	出典	評価
			令和7年度	令和7年度		
各種健康(検)診の充実	1年に1回以上定期的に健康診断を受けている人	80.8%	77.7%	増加	R7健康づくりに関するアンケート調査	×
	特定健康診査受診率	40.6%	44.7% (令和6年度)	60%以上	令和7年度特定健診・特定保健指導情報の集計(年代一覧)	○
	特定保健指導の実施率	46.4%	49.7% (令和6年度)	60%以上		○
生活習慣病の重症化リスクの低減及び予防	高血圧有病者・予備群の割合※1	21.1%	21.3% (令和6年度)	18%以下	しずおか茶っとシステム	×
	脂質異常症の有病者の割合※2	30.1%	24.9% (令和6年度)	27%以下		◎
	メタボリックシンドロームの該当者の割合	17.6%	20.5% (令和6年度)	16.9%以下	KDBシステム	×
	メタボリックシンドロームの予備群の割合	11.1%	11.1% (令和6年度)	10.7%以下		△

※1 血圧Ⅰ度以上(140≦収縮期血圧または90≦拡張期血圧)の人の割合

※2 LDL140以上の人の割合

③ 次代を担う世代の健康と高齢者の生活機能の向上

分野	目標指標	策定当初値	現状値	目標値	出典	評価
			令和7年度	令和7年度		
次世代の健康増進	夜9時までに寝る子	33.2%	調査なし	43%以上	R7保育所(園)入所児童の家庭における食育に関するアンケート	-
	1歳6か月児健診受診率	95.7% ※3	93.8% (R6年度時点)	97.5%以上	R71歳6か月児健康診査結果	×
	3歳児健診受診率	96.9% ※3	99.0% (R6年度時点)	97.5%以上	R73歳児健康診査結果	◎
高齢者の生活機能の向上	生きがいや楽しみのある人(65歳以上)	88.6%	88.9%	100%に近づく	R7健康づくりに関するアンケート調査	○
	悩みや不安を相談できる人や場所がある男性(65歳以上)	63.6%	75.4%	80%以上		○
	1年に1回以上定期的に歯科健診を受けている人(65歳~74歳)	59.1%	60.6%	65%以上		○
	低栄養傾向(BMI20以下)の割合の増加の抑制(65歳以上)	27.4%	22.4%	23%以下		◎

※3 令和2年3月から5月まで未実施

④ 健康を支えるための社会環境の整備

分野	目標指標	策定当初値	現状値	目標値	出典	評価
			令和7年度	令和7年度		
地域および活動拠点の強化	悩みや不安を相談できる人や場所がある(再掲)	77.1%	84.0%	80%以上	R7健康づくりに関するアンケート調査	◎
	健幸アンバサダー養成人数	累計55人	102人	累計80人	R7健幸アンバサダー養成講座修了者	◎
	健幸スポーツの駅設置数	-	6か所	5か所	-	◎

(2) 第3次清水町食育推進計画の評価

食育推進計画の策定時に定めた指標は、合計20指標です。総括的な状況を整理すると、「◎」評価1指標、「○」評価が7指標で、約4割の指標が改善傾向となっています。特に、“ずっと健康でいるための食育”では「○」評価が多くなっています。

しかし、「×」評価は計11指標で55.0%となっており、中でも“みんなで育む食育”で「×」評価が多く、こども一人での朝食の摂取や、朝食または夕食を家族と一緒に食べる共食の回数減少など、共食の機会が減少していることが分かります。

こどもから青年期、壮年期、高齢期まで、すべての年代に応じて「食育」の必要性を理解し、家庭（個人）から、学校・職場等、地域まで、多くの人とのつながりの中で様々な体験を通した切れ目のない「食育」を充実させていく必要があります。

① 食への関心を深める食育

目標指標	対象	策定当初値	現状値	目標値	出典	評価
			令和7年度	令和7年度		
食育に関心がある人の割合	18歳以上	62.4%	71.3%	75%以上	R7健康づくりに関するアンケート調査	○

② みんなで育む食育

目標指標	対象	策定当初値	現状値	目標値	出典	評価
			令和7年度	令和7年度		
行事食を伴う伝統的な行事を行っている人の割合	18歳以上	60.5%	50.0%	75%以上	R7健康づくりに関するアンケート調査	×
子供一人で朝ごはんを食べる割合	保育所	11.5%	24.2%	減少傾向へ	R7食育に関するアンケート調査	×
	幼稚園	※1 13.8%				×
	小学生	12.7%				×
	中学生	14.0%				×
朝食または夕食を家族と一緒に食べる共食の回数	18歳以上	10.3回/週	9.0回/週	11回/週以上	R7健康づくりに関するアンケート調査	×
よく噛んで味わって食べている人の割合	18歳以上	61.3%	71.5%	80%以上	R7健康づくりに関するアンケート調査	○
食品のロス削減のために、何か取組を行っている人の割合	18歳以上	※2 92.9%	93.8%	90%以上を維持する	R7健康づくりに関するアンケート調査	◎

※1 保育所・幼稚園合算値として評価

※2 参考値：令和2年度食育に関するアンケート調査結果[小学生・中学生保護者]

③ ずっと健康でいるための食育

目標指標	対象	策定当初値	現状値	目標値	出典	評価
			令和7年度	令和7年度		
毎日朝食を食べる人の割合	保育所	96.9%	94.1%	100%に近づける	R7食育に関するアンケート調査	×
	幼稚園	95.7%				
	小学生	※ 96.2%				
	中学生	92.4%				
	中学生	85.3%	91.8%	○		
	20～30歳代	63.9%	59.5%	75%以上	R7健康づくりに関するアンケート調査	×
栄養バランスのとれた朝食を食べている生徒の割合	中学生	33.1%	37.7%	50%以上	R7健康づくりに関するアンケート調査	○
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上ほぼ毎日食べる人の割合	18歳以上	54.1%	52.2%	70%以上	R7健康づくりに関するアンケート調査	×
野菜料理を1日に3～4皿以上食べている人の割合	18歳以上	31.2%	32.7%	50%以上	R7健康づくりに関するアンケート調査	○
生活習慣病の予防や改善のためにふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する人の割合	18歳以上	55.1%	59.7%	60%以上	R7健康づくりに関するアンケート調査	○

※ 保育所・幼稚園合算値として評価

④ 町全体ですすめる食育

目標指標	対象	策定当初値	現状値	目標値	出典	評価
			令和7年度	令和7年度		
学校給食で取り入れた県内産地場産物の割合 (食材数ベース)	—	31.9%	— ※R7:46.88% (金額ベース)	45%以上	学校給食における地場産物の活用に関する実態調査	—
農林漁業体験を経験したことがある人の割合	18歳以上	74.6%	70.1%	80%以上	R7健康づくりに関するアンケート調査	×

※ 令和7年度の金額ベースの割合を参考にして記載

(3) 第3次清水町歯科保健行動計画の評価

歯科保健行動計画の策定時に定めた指標は、合計9指標です。総括的な状況を整理すると、「◎」評価が5指標、「○」評価が2指標で、約8割の指標が改善傾向となっています。特に、歯科健診の受診や、歯間清掃用具の使用、「オーラルフレイル」の認知度について、目標値を達成しており、セルフケアや口腔への関心が高いことわかります。

また、むし歯を経験するこどもの割合の増加や、成人の進行した歯周炎にかかっている人の割合が増加しており、こどもから青年期、壮年期、高齢期まで、すべての年代に応じて口腔機能の維持と疾病予防を両輪で推進していくことが必要です。

目標指標	策定当初値	現状値	目標値	出典	評価
		令和7年度	令和7年度		
8020推進員養成講座の修了者数	387人	449人	450人以上	8020推進員研修会修了者(令和6年度)	○
「オーラルフレイル」という言葉を知っている人の割合	※ 13.1% (23.0%)	42.2%	40%以上	R7健康づくりに関するアンケート調査	◎
乳歯にむし歯の経験がある3歳児の割合	10.5%	5.6% (令和5年度)	10%以下	令和5年度静岡県3歳児健康診査結果【歯科】	◎
乳歯にむし歯の経験がある5歳児の割合	42.9%	27.6% (令和6年度)	35%以下	令和6年度静岡県5歳児歯科調査結果	◎
永久歯にむし歯の経験がある小学6年生の割合	24.7%	15.8%	20%以下	令和6年度学校歯科保健調査結果	◎
永久歯にむし歯の経験がある中学3年生の割合	30.4%	38.0%	20%以下		×
進行した歯周炎にかかっている人の割合(40歳～64歳)	48.4%	49.8% (令和6年度)	35%以下	R6歯科口腔健診結果	×
歯間清掃用具の使用割合	64.5% (令和2年度)	71.2%	70%以上	R7健康づくりに関するアンケート調査	◎
1年に1回以上定期的に歯科健診を受けている人の割合(65歳～74歳)	59.1%	60.6%	65%以上	R7健康づくりに関するアンケート調査	○

※ 令和2年度歯科保健アンケート調査の数値を策定当初値としています。括弧書きについては、「言葉は知っている」「言葉も意味も知っている」の選択肢を合算しており、評価をしています。

